



AVレシーバー
RX-V383
取扱説明書

ご使用前に本説明書の「安全上のご注意」（7ページ）を必ずお読みください。

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機は、ご家庭で映像や音声を楽しむための製品です。
- 本説明書では、本機をお使いになる方のための設置や操作方法を説明しています。
- 製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用前に本書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共にいつでも見られるところに大切に保管してください。
- 保証書に「購入日、販売店名」が正しく記入されていることを必ずご確認ください。

この製品には、本書のほかに「スタートアップガイド」が付属しています。はじめに「スタートアップガイド」をご覧ください。

本書および「スタートアップガイド」は以下のウェブサイトからPDF版をダウンロードできます。

<http://download.yamaha.com/jp/>

目次

ご使用になる前に

安全上のご注意.....	7
注記とお知らせ.....	12
付属品を確認する.....	14
付属品を確認する.....	14
本説明書について.....	14
本説明書について.....	14
リモコンで操作するには.....	14
リモコンに電池を入れる.....	14
リモコンの操作範囲.....	14

本機の特長

本機でできること.....	15
関連アプリ.....	16
AV SETUP GUIDE.....	16
各部の名称.....	17
本体前面の名称と機能.....	17
本体前面ディスプレイ（インジケーター）の名称と機能.....	19
本体背面の名称と機能.....	20
リモコンの名称と機能.....	21

準備する

1 スピーカーを接続する.....	22
スピーカーの名称と機能.....	22
スピーカーの準備.....	22
スピーカーケーブルの準備.....	22
スピーカーケーブルの加工・接続時のご注意.....	23
スピーカーの接続のしかた.....	23
5.1 システム.....	26
5.1 システム（バーチャルシネマフロント）.....	26
その他のシステム.....	26
2 テレビを接続する.....	28
テレビを HDMI 接続する.....	28
テレビをビデオ（コンポジット）接続する.....	28
3 AV 機器を接続する.....	29
BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する.....	29
AV 機器を HDMI 以外で接続する.....	29
4 FM/AM アンテナを接続する.....	31
FM/AM アンテナを接続する.....	31
5 電源コードを接続する.....	32
電源コードを接続する.....	32
6 スピーカー設定を行う.....	33
スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）.....	33
YPAO のエラーメッセージ一覧.....	35
YPAO のエラーメッセージ表示後の操作.....	35
YPAO の警告メッセージ一覧.....	36
YPAO の警告メッセージ表示後の操作.....	36

再生する

37

基本操作.....	37
再生の基本操作.....	37
前面ディスプレイの表示を切り替える.....	38
再生画面の名称と機能.....	38
ブラウズ画面の名称と機能.....	39
お好みのサウンドを選ぶ.....	40
お好みのサウンドを選ぶ.....	40
音場効果をかけて再生する.....	41
音場効果をかけずに再生する.....	43
低音を増強する.....	44
圧縮フォーマット (MP3 など) を厚みのある音で再生する.....	44
FM/AM ラジオを聞く.....	45
周波数を指定してラジオ局を選ぶ.....	45
プリセット登録したラジオ局を呼び出す.....	46
ラジオ局を自動でプリセット登録する (オートプリセット)	46
ラジオ局を手動でプリセット登録する.....	47
ラジオ局のプリセット登録を解除する (クリアプリセット)	47
Bluetooth®接続で再生する.....	48
Bluetooth®機器を接続する (ペアリング)	48
Bluetooth®機器の音声を本機で再生する.....	49
本機の音声を Bluetooth®対応スピーカー/ヘッドホンで再生する.....	50
USB 機器の曲を再生する.....	51
USB 機器の曲を再生する.....	51
便利な再生機能.....	52
入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)	52
SCENE キーに登録したシーンを呼び出す.....	52
SCENE キーの登録内容を変更する.....	52

再生ソースに合わせて設定する (オプションメニュー)	53
再生機能を変更する (オプションメニュー)	53
オプションメニュー一覧.....	53
入力を切り替える (Input Select)	54
出力される音声のトーンを調整する (Tone Control)	54
DSP/サラウンドの設定を変更する (DSP/Surround)	55
再生時の音量差を調整する (Volume Trim)	56
リップシンク補正を使用するか設定する (Lipsync)	56
映像/音声信号情報を確認する (Signal Info.)	56
映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する (Audio In)	57
音声と同時に出力する映像を選択する (Video Out)	57
FM ラジオの受信方法 (ステレオ/モノラル) を設定する (FM Mode)	58
リピート再生を設定する (Repeat)	58

設定する

59

機能設定を変更する (設定メニュー)	59
機能設定を変更する (設定メニュー)	59
設定メニュー一覧.....	60

スピーカー設定.....	62	音声設定.....	68
サブウーファーの有無を設定する.....	62	パノラマを設定する.....	68
フロントスピーカーのサイズを設定する.....	62	センターの広がりを調節する.....	68
センタースピーカーの有無やサイズを設定する.....	62	ディメンションを調節する.....	68
サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する.....	63	センター定位の強さ（広がり感）を調節する.....	68
低音クロスオーバーの周波数を設定する.....	63	リップシンクの調整方法を設定する.....	69
サブウーファーの位相を設定する.....	63	リップシンクの補正值を調整する.....	69
エクストラベースを設定する.....	63	セリフの音量を調整する.....	69
バーチャルシネマフロントを設定する.....	64	音量表示の単位を設定する.....	69
スピーカーの距離を個別に設定する.....	64	ダイナミックレンジの調節方法を設定する.....	69
スピーカーの音量を個別に調整する.....	64	音量の上限を設定する.....	70
イコライザーを設定する.....	65	電源を入れたときの音量を設定する.....	70
テストトーンを出力する.....	65		
HDMI 設定.....	66	エコ設定.....	71
HDMI コントロールを設定する.....	66	自動スタンバイまでの時間を設定する.....	71
HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する.....	66	エコモードを設定する.....	71
HDMI 映像信号の 4K アップスケーリングを設定する.....	66		
テレビからの音声を入力する端子を設定する.....	66	ファンクション設定.....	72
本機とテレビのスタンバイ連動を設定する.....	67	前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する.....	72
ARC を設定する.....	67	前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する.....	72
シーン運動を設定する.....	67	入力スキップを設定する.....	73
		前面ディスプレイの明るさを設定する.....	73
		設定を保護する.....	73
		リモコンのカラーキーの機能を変更する.....	73
		Bluetooth.....	74
		Bluetooth を設定する.....	74
		Bluetooth スタンバイを設定する.....	74
		言語設定.....	74
		メニュー言語を設定する.....	74

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）	75
システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）	75
アドバンスドセットアップメニュー一覧	75
リモコン ID を設定する（REMOTE ID）	75
ビデオ信号方式を設定する（TV FORMAT）	76
HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する（4K MODE）	76
設定を初期化する（INIT）	77
ファームウェアを更新する（UPDATE）	77
ファームウェアバージョンを確認する（VERSION）	77

付録 78

こんな場合の解決方法	78
別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった	78
音量が大きくならないようにしたい	78
電源を入れた時の音量を一定にしたい	78
入力によって音量が違う	78
HDMI コントロールが機能しない	78
入力名を変更したい	78
設定変更を禁止したい	79
本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう	79
本機の入力端子（映像/音声）の組み合わせが外部機器と合わない	79
テレビの映像とスピーカーの音声がずれている	79
テレビのスピーカーから音声を出力したい	79
ファームウェアを更新したい	79

故障かな？と思ったら	80
故障かな？と思ったら最初にご確認ください	80
電源/システム/リモコンのトラブル	80
音声のトラブル	81
映像のトラブル	83
FM/AM ラジオのトラブル	84
USB のトラブル	85
Bluetooth®のトラブル	85
前面ディスプレイのエラー表示	87
前面ディスプレイのエラー表示	87
入出力端子とケーブル	88
映像/音声を入出力する端子	88
映像を入出力する端子	88
音声を入出力する端子	88
用語/技術解説	89
音声に関する用語	89
HDMI/映像に関する用語	90
ヤマハテクノロジーに関する用語	91
対応している機器とフォーマット	91
対応している Bluetooth 機器	91
対応している USB 機器	91
対応しているフォーマット	91
映像信号の流れ	92
映像信号の流れ	92
HDMI について	92
HDMI コントロールと連動機能	92
オーディオリターンチャンネル（ARC）	94
対応している HDMI 信号	94

商標	95
商標	95
主な仕様	96
主な仕様	96
初期値一覧	100
オプションメニュー初期値一覧	100
設定メニュー初期値一覧	100
アドバンスドセットアップメニュー初期値一覧	101

ご使用になる前に

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、機器を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

注意喚起を示す記号



禁止を示す記号



行為を指示する記号



- 点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。



警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



電源コードが破損するようなことをしない。

- 禁止
- ストーブなどの熱器具に近づけない
 - 無理に曲げたり、加工しない
 - 傷つけない
 - 重いものをのせない

芯線がむき出しのまま使用すると、感電や火災の原因になります。



落雷のおそれがあるときは、電源プラグやコードに触らない。

禁止 感電の原因になります。



電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。

必ず実行 誤って接続すると、火災、感電、または故障の原因になります。



必ず実行 電源プラグを定期的に確認し、ほこり

が付着している場合はきれいに拭き取

る。

火災または感電の原因になります。



必ず実行 電源プラグは、見える位置で、手が届

く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないかぎり電源から完全に遮断されません。



必ず実行 雷が鳴り出したら、早めに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

火災や故障の原因になります。



必ず実行 長期間使用しないときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

火災や故障の原因になります。

分解禁止



禁止

この機器を分解したり改造したりしない。

火災、感電、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意



禁止

- この機器の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。
- 浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、火災や感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。また、ぬれた手でこの機器を扱わない。

感電や故障の原因になります。

火に注意



禁止

この機器の近くで、火気を使用しない。

火災の原因になります。

乾電池



禁止

乾電池を分解しない。

乾電池の中のものに触れたり目に入ったりすると、失明や化学やけどなどのおそれがあります。



禁止

乾電池を火の中に入れない。

破裂により、火災やけがの原因になります。



禁止

乾電池を日光や火のような高温に晒さない。

破裂により、火災やけがの原因になります。



禁止

使い切りタイプの乾電池は充電しない。

充電すると破裂や液漏れの原因になり、失明や化学やけど、けがなどのおそれがあります。



乾電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。

失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

ワイヤレス機器



医療機器の近くなど電波の使用が制限された区域で使用しない。

この機器が発生する電波により、医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。



心臓ペースメーカーや除細動器の装着部分から 15cm 以内で使用しない。

この機器が発生する電波により、ペースメーカーや除細動器の動作に影響を与えるおそれがあります。

異常に気づいたら



以下のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コード/プラグが傷んだ場合
- 機器から異常なにおいや煙が出た場合
- 機器の内部に異物が入った場合
- 使用中に音が出なくなった場合
- 機器に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。



この機器を落としたり、強い衝撃を与えないように注意する。落とすなどして破損したおそれのある場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



注意

「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

電源 / 電源コード



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントを使用しない。

火災、感電、やけどの原因になります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積したりして火災ややけどの原因になります。

設置



不安定な場所や振動する場所に置かない。

この機器が落下や転倒して、けがや故障の原因になります。



この機器の通風孔(放熱用スリット)をふさがない。
内部の温度上昇を防ぐため、この機器の天面/側面/底面には通風孔があります。機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。



この機器を設置する際は、

- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
- 天面以外を上にして設置しない。
- 風通しの悪い狭いところへは押し込まない。

機器内部に熱がこもり、火災や故障の原因になります。本機の周囲に上30cm、左右20cm、背面20cm以上のスペースを確保してください。



塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。
故障の原因になります。



地震など災害が発生した場合はこの機器に近づかない。
この機器が転倒または落下して、けがの原因になります。



必ず実行

この機器を移動する前に、必ず電源スイッチを切り、接続ケーブルをすべて外す。

ケーブルを傷めたり、お客様やほかの方々が転倒したりするおそれがあります。

聴覚障害



必ず実行

大きな音量で長時間ヘッドホン/スピーカーを使用しない。

聴覚障害の原因になります。異常を感じた場合は、医師にご相談ください。



必ず実行

- ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。
- 電源を入れたり切ったりする前に、必ずこの機器の音量(ボリューム)を最小にする。

聴覚障害、感電または機器の損傷の原因になることがあります。



必ず実行

オーディオシステムの電源を入れるときは、この機器をいつも最後に入れる。電源を切るときは、この機器を最初に切る。

聴覚障害やスピーカーの損傷の原因になることがあります。

お手入れ



必ず実行

お手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。
感電の原因になることがあります。

取り扱い



必ず実行

この機器のパネルのすき間に手や指を入れない。
けがの原因になります。



必ず実行

この機器のパネルのすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
火災、感電、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



必ず実行

- この機器の上にのったり重いものをのせたりしない。
 - ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
- けがをしたり、この機器が破損したりする原因になります。



禁止 接続されたケーブルを引っ張らない。

接続されたケーブルを引っ張ると、機器が転倒して破損したり、けがをしたりする原因になります。

乾電池



禁止 乾電池は新しいものと古いものを一緒に使用しない。

乾電池は一度に全部を交換してください。新しいものと古いものを一緒に使用すると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止 指定以外の電池を使用しない。また、種類の異なる乾電池と一緒に使用しない。

アルカリとマンガンと一緒に使用したり、メーカーまたは品番の異なる電池と一緒に使用したりすると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



禁止 乾電池は乳幼児の手の届くところに置かない。

お子様が誤って飲み込むことがあります。また、電池の液漏れなどにより炎症を起こすことがあります。



禁止 電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液漏れにより、火災やけがの原因になります。



乾電池はすべて+/-の極性表示どおりに正しく入れる。

必ず実行

正しく入れていない場合、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。



長時間使用しない場合や乾電池を使い切った場合は、乾電池をリモコンから抜いておく。

必ず実行

乾電池が消耗し、乾電池から液漏れが発生し、炎症やリモコンの損傷の原因になります。



乾電池を保管する場合および廃棄する場合には、テープなどで端子部を絶縁する。

必ず実行

他の電池や金属製のものと混ぜると、火災、やけど、または液漏れによる炎症の原因になります。

注記とお知らせ

注記について

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、また環境保護のため、お守りいただく内容です。

注記

■ 電源コード

- この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。○（電源）キーでスタンバイ状態にしても微電流が流れています。

■ 設置

- テレビやラジオ、AV 機器、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- 直射日光のある場所やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。この機器のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります。
- 他の電気製品とはできるだけ離して設置してください。この機器はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

- Bluetooth を使用する場合は、金属製の壁や机、電子レンジ、他の無線機器の近くへの設置を避けてください。遮蔽物があると通信可能距離が短くなる場合があります。

■ 接続

- 外部機器を接続する場合は、各機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。説明に従って正しく取り扱わない場合、故障の原因となります。
- 業務用機器とは接続しないでください。デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

■ 取り扱い

- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色/変質する原因になります。
- 機器の周囲温度が極端に変化して（機器の移動時や急激な冷暖房下など）、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れずに数時間放置し、結露がなくなつてから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。

■ お手入れ

- 手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナーなどの薬剤、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になります。

■ 電池

- 使用済みの乾電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

お知らせについて

本製品に関するお知らせです。

お知らせ

■ 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ

- この製品は、日本国内専用です。
- この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。
- 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。

無線に関するご注意

この製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。

本機の無線方式について

（Bluetooth）

2.4 FH 1



「2.4」：2.4 GHz 帯を使用する無線設備

「FH」：変調方式は周波数ホッピング（FH-SS 方式）

「1」：想定干渉距離が 10 m 以内

■ ■ ■：全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能

本機は、電波法に基づく認証を受けた無線機器を搭載しています。

付属品を確認する

付属品を確認する

付属品がすべて揃っていることをお確かめください。

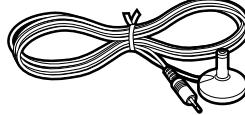
□ AM アンテナ



□ FM アンテナ



□ YPAO 用マイク



□ リモコン

□ 単4 乾電池 (2本)

□ 取扱説明書

□ スタートアップガイド

本説明書について

本説明書について

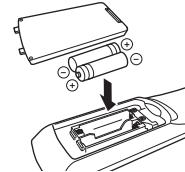
本説明書をお読みになる時は、以下にご注意ください。

- 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
- 本説明書では、付属のリモコンによる操作を主として説明しています。
- 本説明書内で使用されているマーク
 - 「 警告」は、死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される情報が記載されています。
 - 「 注意」は、傷害を負う可能性が想定される情報が記載されています。
 - 「注記」は、製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐための情報が記載されています。
 - 「NOTE」は、知っておくと便利な補足情報が記載されています。

リモコンで操作するには

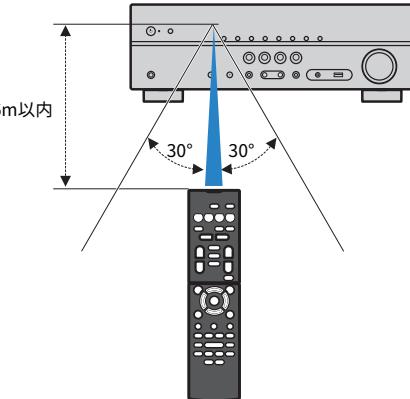
リモコンに電池を入れる

付属の乾電池を、正しい向き (+と-) でリモコンに入れてください。



リモコンの操作範囲

リモコンを本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。



本機の特長

本機でできること

2~5.1 チャンネルのスピーカー システムに対応

使用するスピーカーの本数に応じてさまざまなスタイルでお好みの音響空間を満喫できます。

- 部屋に合わせてスピーカー設定を簡単に自動調整 (YPAO)

詳しくは「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(33 ページ) をご覧ください。

- ステレオ音声やマルチチャンネル音声を映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場で再現 (シネマ DSP)

詳しくは「立体的な音場効果で再生する (シネマ DSP)」(41 ページ) をご覧ください。

- 圧縮オーディオをダイナミックに再生 (ミュージックエンハンサー)

詳しくは「圧縮フォーマット (MP3 など) を厚みのある音で再生する (ミュージックエンハンサー)」(44 ページ) をご覧ください。

入力と設定をワンタッチで切り替え (シーン機能)

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した内容 (音場プログラム、ミュージックエンハンサーの有効/無効など) をワンタッチで切り替えられます。

詳しくは「入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)」(52 ページ) をご覧ください。

4K Ultra HD 信号およびHDCP2.2 に対応

本機は著作権保護技術 HDCP2.2 に対応し、4K 映像などプレミアムコンテンツの再生を楽しめます。

詳しくは「HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する (4K MODE)」(76 ページ) をご覧ください。

さまざまな外部機器を接続

本機は、複数の HDMI 端子に加え、各種の入力/出力端子を装備しています。BD/DVD レコーダーなどのビデオ機器や、CD プレーヤーなどのオーディオ機器、ゲーム機や携帯音楽プレーヤーなどさまざまな外部機器を、本機に接続できます。詳しくは以下をご覧ください。

- ・「BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する」(29 ページ)
- ・「BD/DVD レコーダーなどをビデオ (コンポジット) 接続する」(29 ページ)
- ・「CD プレーヤーなどを接続する」(30 ページ)
- ・「本体前面の端子に AV 機器を接続する」(30 ページ)

HDMI ケーブル 1 本でテレビ音声もサラウンド再生 (オーディオリターンチャンネル : ARC)

ARC 対応のテレビをお使いの場合は、本機からテレビへの映像出力と、テレビからの音声入力、HDMI コントロール信号の伝送が、HDMI ケーブル 1 本ですべて可能です。

詳しくは「テレビを HDMI 接続する」(28 ページ) をご覧ください。

テレビ、AV レシーバー、BD/DVD レコーダーを連動操作 (HDMI コントロール)

HDMI ケーブルで本機とテレビや BD/DVD レコーダーなどを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機 (電源や音量など) や BD/DVD レコーダーを操作できます。

詳しくは「HDMI コントロールと連動機能」(92 ページ) をご覧ください。

Bluetooth®機器に対応

Bluetooth 機器に保存した音楽ファイルを本機で再生できます。

詳しくは「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」(49 ページ) をご覧ください。

USB 機器に対応

USB 機器に保存した音楽ファイルを本機で再生できます。

詳しくは「USB 機器の曲を再生する」(51 ページ) をご覧ください。

前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生

サラウンドスピーカーを前方に設置しても、サラウンド再生を楽しめます。

詳しくは「前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)」(42 ページ) をご覧ください。

エコ機能で消費電力を低減

エコモード (省電力モード) に設定すると、本機の消費電力を低減できます。

詳しくは「エコモードを設定する」(71 ページ) をご覧ください。

低音を増強して再生

エクストラベースにより、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

詳しくは「低音を増強する (エクストラベース)」(44 ページ) をご覧ください。

FM/AM ラジオを聴く

本機は FM/AM チューナーを内蔵しています。最大 40 局のラジオ局をプリセット登録して呼び出せます。

詳しくは「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」(45 ページ) をご覧ください。

テレビ画面を見ながら簡単操作

USB 機器の曲の選択、オプションメニューや設定メニューの設定などは、テレビ画面の表示を見ながら簡単に操作できます。

HDMI 接続機器に応じて自動的に名称生成

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、自動名称変更機能で生成された名称から選択できます。

詳しくは「前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する」(72 ページ) をご覧ください。

関連アプリ

AV SETUP GUIDE



「AV SETUP GUIDE」は、AV レシーバーとプレーヤーなどの再生機器とのケーブル接続や、AV レシーバーの設定を簡単に実行できるアプリです。スピーカー接続やテレビ・再生機器の接続などのさまざまな設定をガイドしながら進めます。

NOTE

本アプリはタブレット専用です。

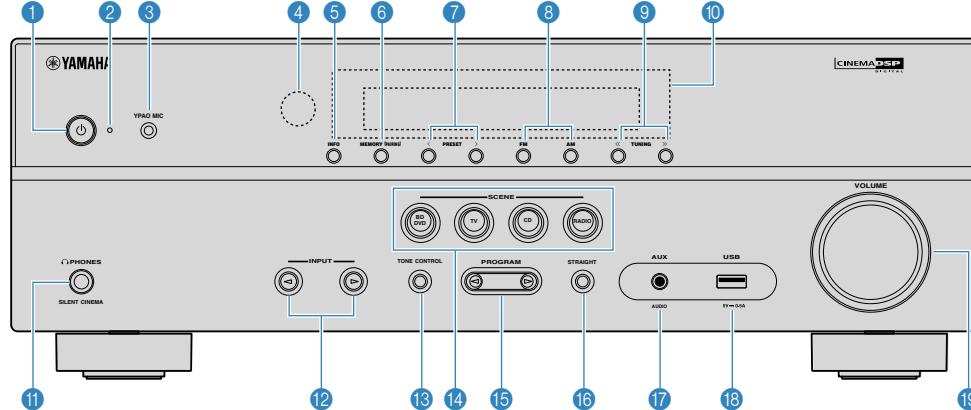
主な機能

- ・接続ガイド機能
 - スピーカー接続
 - テレビ/再生機器接続
- ・設定ガイド機能
 - 図・イラストによる各種設定サポート
 - YPAO の測定ガイド
- ・取扱説明書の参照機能

詳しくは App Store または Google Play™で「AV SETUP GUIDE」を検索してください。

本体前面の名称と機能

本体前面の名称と機能について説明します。



① ⏪ (電源) キー

本機の電源を入/切（スタンバイ）します。

② スタンバイ表示

本機がスタンバイ時、以下の状態で点灯します。

- Bluetooth スタンバイが有効（74 ページ）

③ YPAO MIC (YPAO マイク) 端子

付属の YPAO 用マイクを接続します（33 ページ）。

④ リモコン信号受光部

リモコンの信号を受信します（14 ページ）。

⑤ INFO (インフォ) キー

前面ディスプレイの表示を切り替えます（38 ページ）。

⑥ MEMORY (PAIRING) (メモリー [ペアリング]) キー

—

FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します（47 ページ）。

3 秒間押し続けると、Bluetooth 機器とのペアリングを開始します（48 ページ）。

⑦ PRESET (プリセット) キー

プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます（46 ページ）。

⑧ FM/AM キー

FM/AM を切り替えます（45 ページ）。

⑨ TUNING (チューニング) キー

ラジオ周波数を切り替えます（45 ページ）。

⑩ 前面ディスプレイ

各種情報が表示されます（19 ページ）。

⑪ PHONES (フォーンズ) 端子

ヘッドホンを接続します。

⑫ INPUT (インプット) キー

入力を切り替えます。

⑬ TONE CONTROL (トーンコントロール) キー

出力される音声の高音域と低音域音量を、それぞれ調節します（54 ページ）。

⑭ SCENE (シーン) キー

登録した入力、音場プログラムにワンタッチで切り替えます（52 ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

15 PROGRAM (プログラム) キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーを選びます
(40 ページ)。

16 STRAIGHT (ストレート) キー

ストレートデコードを有効/無効にします
(43 ページ)。

17 AUX 端子

携帯音楽プレーヤーなどの機器を接続します
(30 ページ)。

18 USB 端子

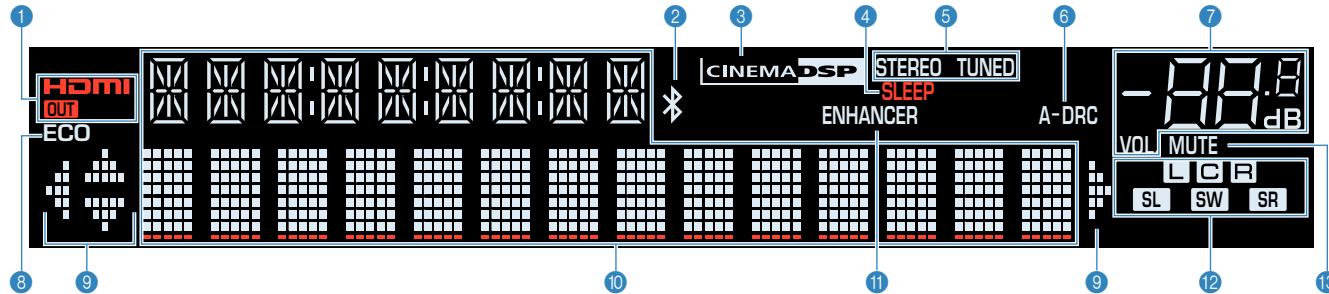
USB 機器を接続します (51 ページ)。

19 VOLUME (ボリューム) つまみ

音量を調節します。

本体前面ディスプレイ（インジケーター）の名称と機能

本体前面のディスプレイの名称と機能について説明します。



① HDMI

HDMI 信号入力/出力時に点灯します。

OUT (アウト)

HDMI 信号出力時に点灯します。

② BLUETOOTH (ブルートゥース)

Bluetooth 接続時 (49 ページ) に点灯します。

③ CINEMA DSP (シネマ DSP)

シネマ DSP (41 ページ) が機能しているときに点灯します。

④ SLEEP (スリープ)

スリープタイマー設定時に点灯します。

⑤ STEREO (ステレオ)

ステレオ放送受信時に点灯します。

TUNED (チューンド)

FM/AM ラジオ受信時に点灯します。

⑥ A-DRC (アダプティブ DRC)

アダプティブ DRC (55 ページ) が機能しているときに点灯します。

⑦ 音量表示

音量を表示します。

⑧ ECO (エコ)

エコモード (71 ページ) が有効になっているときに点灯します。

⑨ カーソル表示

操作可能なリモコンのカーソルキーを表示します。

⑩ 情報ディスプレイ

選択中の入力や音場プログラムなど、ステータス情報を表示します。INFO キーで、表示する情報を選べます (38 ページ)。

⑪ ENHANCER (エンハンサー)

ミュージックエンハンサー (44 ページ) が機能しているときに点灯します。

⑫ スピーカー表示

音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

L フロントスピーカー (左)

R フロントスピーカー (右)

C センタースピーカー

SL サラウンドスピーカー (左)

SR サラウンドスピーカー (右)

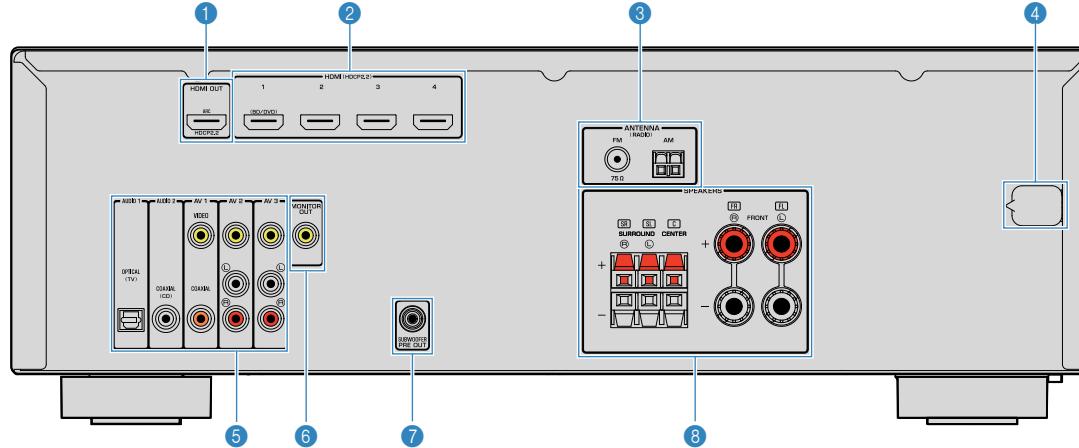
SW サブウーファー

⑬ MUTE (ミュート)

ミュートが機能しているときに点滅します。

本体背面の名称と機能

本体背面の名称と機能について説明します。



- 実際の製品では、誤接続を防ぐために映像/音声出力端子の周辺が白色で塗られています。

① HDMI OUT (HDMI アウト) 端子

HDMI 入力対応のテレビを接続し、映像/音声を出力します (28 ページ)。ARC 使用時は、HDMI OUT 端子でテレビ音声の入力も可能です。

② HDMI1~4 端子

HDMI 出力対応の再生機器を接続し、映像/音声を入力します (29 ページ)。

③ ANTENNA (アンテナ) 端子

FM アンテナと AM アンテナを接続します (31 ページ)。

④ 電源コード

電源コードのプラグをコンセントに接続します (32 ページ)。

⑤ AUDIO1~2 端子、AV1~3 端子

映像/音声出力を持つ再生機器を接続し、映像/音声を入力します (29 ページ)。

⑥ MONITOR OUT (モニターアウト) 端子

テレビを接続し、映像を出力します (28 ページ)。

⑦ SUBWOOFER PRE OUT (サブウーファープリアウト) 端子

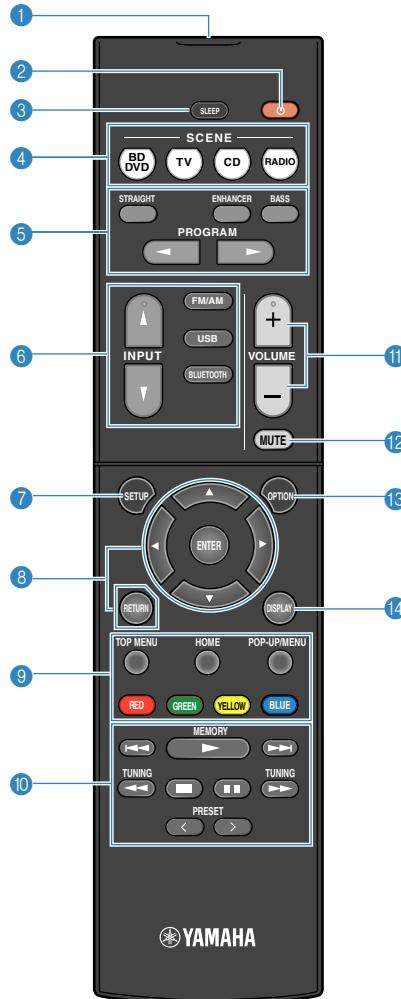
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します (24 ページ)。

⑧ SPEAKERS (スピーカー) 端子

スピーカーを接続します (22 ページ)。

リモコンの名称と機能

リモコンの名称と機能について説明します。



① リモコン信号送信部

赤外線を送信します。

② ⌂ (レシーバー電源) キー

本機の電源を入/切（スタンバイ）します。

③ SLEEP (スリープ) キー

繰り返し押してスリープタイマーの時間（120分、90分、60分、30分、切）を設定します。スリープタイマー設定中は、前面ディスプレイに「SLEEP」が点灯します。指定した時間が経過すると、本機がスタンバイになります。

④ SCENE (シーン) キー

登録した入力、音場プログラムにワンタッチで切り替えます（52ページ）。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。

⑤ サウンド選択キー

音場プログラムやサラウンドデコーダーなどを選びます（40ページ）。

⑥ 入力選択キー

再生する入力を選びます。

⑦ SETUP (セットアップ) キー

設定メニューを表示します（59ページ）。

⑧ メニュー操作キー

カーソルキー メニューや設定値を選びます。

ENTER キー 選択項目を決定します。

RETURN キー メニュー操作中に、1つ前の表示に戻します。

⑧⑨⑩ 外部機器操作キー

HDMI コントロールに対応している再生機器の再生操作を行います。また、USB 機器の再生操作を行います。

NOTE

- HDMI コントロールに対応している再生機器が対象です。ただし、すべての HDMI コントロール対応機器の動作を保証するものではありません。
- RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーには、本機の機能を割り当てるすることができます（73ページ）。

⑩ ラジオキー

入力が「TUNER」のときに FM/AM ラジオを操作します（45ページ）。

MEMORY キー FM/AM ラジオ局をプリセット（登録）します。

PRESET キー プリセットした FM/AM ラジオ局を選びます。

TUNING キー ラジオ周波数を切り替えます。

⑪ VOLUME (ボリューム) キー

音量を調節します。

⑫ MUTE (ミュート) キー

消音します。

⑬ OPTION (オプション) キー

オプションメニューを表示します（53ページ）。

⑭ DISPLAY (ディスプレイ) キー

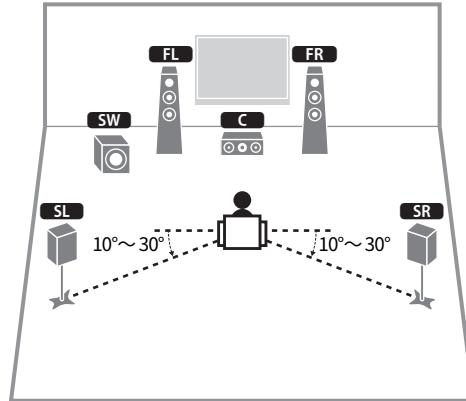
テレビに再生画面、ブラウズ画面などを表示します。

準備する

1 スピーカーを接続する

スピーカーの名称と機能

本機に接続する各スピーカーの名称と機能について説明します。



NOTE

サブウーファーは左右どちらに設置してもかまいません。

スピーカーの種類	略称	機能
フロント左/右	FL / FR	フロント左/右チャンネルの音声（ステレオ音声）を出力します。
センター	C	センターチャンネルの音声、映画のセリフ/ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
サラウンド左/右	SL / SR	サラウンド左/右チャンネルの音声を出力します。
サブウーファー	SW	LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドチャンネルなどの低音を出力します。サブウーファーのチャンネル数は「0.1」と表します。

スピーカーの準備

本機に接続するスピーカーとサブウーファーは、以下の条件に合うものを準備してください。

- スピーカーはインピーダンスが 6Ω 以上のもの
- サブウーファーはアンプ内蔵のもの

NOTE

- スピーカーは使用するシステムに応じた数を準備してください。
- フロントスピーカー（左/右）は必ず接続してください。

スピーカーケーブルの準備

本機とスピーカーを接続するため、以下のケーブル（市販品）を準備してください。

- スピーカーケーブル（スピーカー接続用）



- モノラルピンケーブル（サブウーファー接続用）

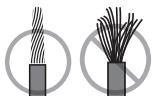


スピーカーケーブルの加工・接続時のご注意

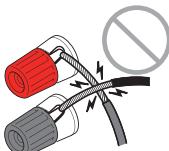
スピーカーケーブルを加工・接続するときは、以下の内容に注意してください。

注記

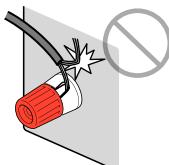
- スピーカーケーブルを加工するときは、本機から離れた場所で行ってください。スピーカーケーブルの芯線が機内部に入りショートするなど、故障の原因となります。
- 誤った方法でスピーカーケーブルを接続すると、スピーカーケーブルがショートし、本機やスピーカーが故障する原因となります。
- 芯線の先端をしっかりとよじる



- 芯線どうしを接触させないでください。



- 芯線を本機の金属部（背面パネル、ネジなど）に接触させないでください。



スピーカーの接続のしかた

■ スピーカーを接続する

本機とスピーカーの-（マイナス）端子どうし、+（プラス）端子どうしを接続してください。

通常スピーカーケーブルは2芯（+と-）で1本になっています。色で区別されている場合、黒を-（マイナス）側、もう一方を+（プラス）側と決めておくと間違わずに接続できます。

NOTE

- 接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- フロントスピーカー（左/右）は必ず接続してください。
- 電源を入れて前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。

■ フロントスピーカーを接続する

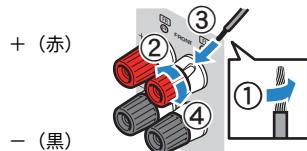
フロントスピーカー（左/右）を本機に接続します。

- 1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約10mmはがし、芯線をしっかりとよじる。
- 2 スピーカー端子をゆるめる。
- 3 端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

NOTE

電源を入れて前面ディスプレイに「Check SP Wires」と表示された場合は、電源を切り、スピーカーケーブルがショートしていないか確認してください。

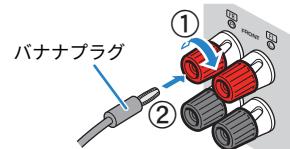
4 端子を締め付ける。



これでスピーカーの接続は完了です。

NOTE

バナナプラグを使用する場合は、スピーカー端子をゆるめず端子に差し込んでください。

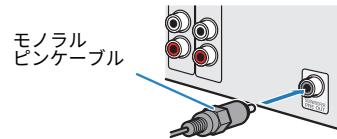


■ サブウーファーを接続する

本機とサブウーファーをモノラルピンケーブルで接続します。

NOTE

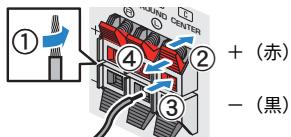
接続する前に、本機とサブウーファーの電源プラグをコンセントから外してください。



■ センター/サラウンドスピーカーを接続する

センタースピーカーおよびサラウンドスピーカーを本機に接続します。

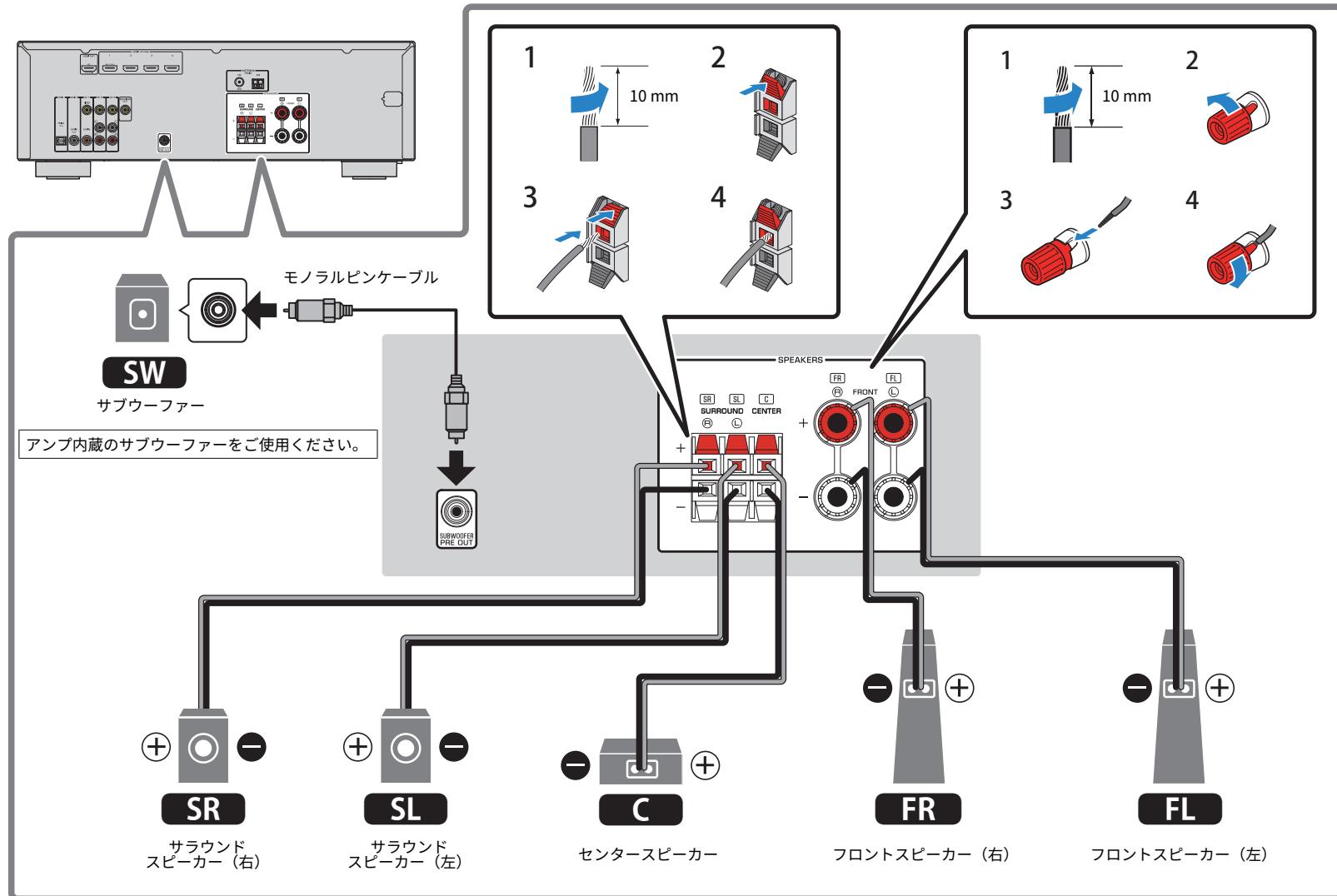
- 1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を約 10mm はがし、芯線をしっかりとよじる。
- 2 スピーカー端子のタブを押し続ける。
- 3 端子部の開いた穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。
- 4 タブを離す。



これでスピーカーの接続は完了です。

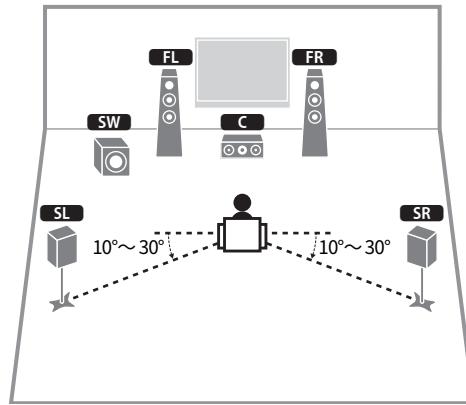
■ スピーカーの接続例

本機にスピーカーおよびサブウーファーを接続します。代表的な接続例として、5.1システムで説明します。



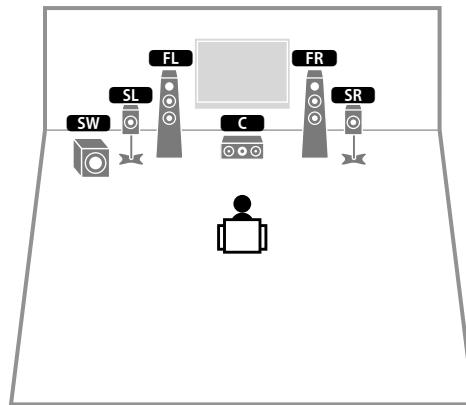
5.1 システム

サラウンド再生を楽しむ基本的な配置です。



5.1 システム（バーチャルシネマフロント）

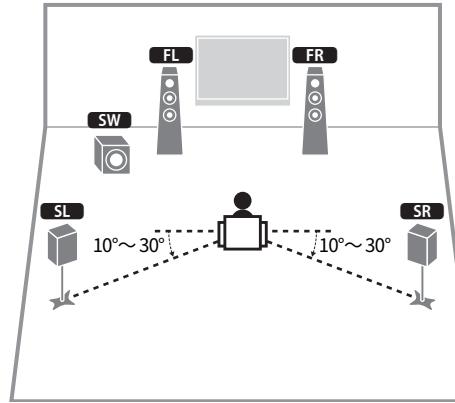
部屋の後方にスピーカーを配置できない場合におすすめのスピーカーシステムです。このスピーカーシステムを有効にするには、設定メニューの「バーチャルシネマフロント」を「オン」に設定してください。詳しくは「バーチャルシネマフロントを設定する」(64 ページ) をご覧ください。



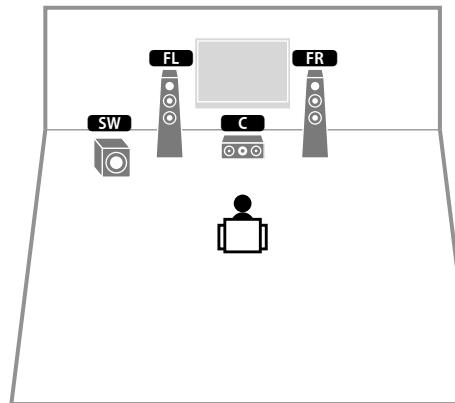
その他のシステム

本機は以下のスピーカーシステムも接続できます。

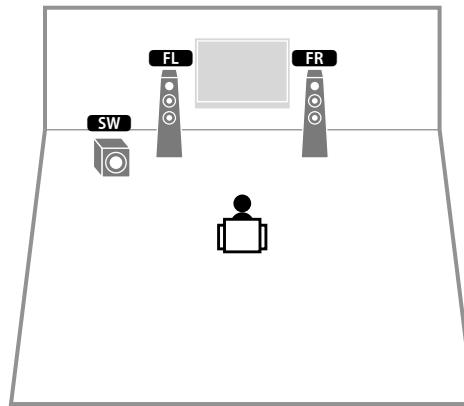
4.1 システム



3.1 システム



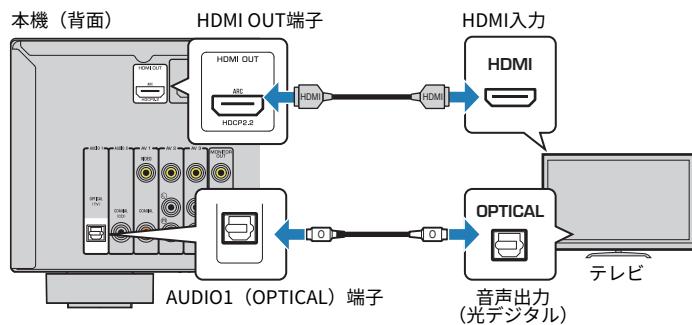
2.1 システム



2 テレビを接続する

テレビを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機にテレビを接続します。テレビが ARC に対応している場合、本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力できます。



オーディオリターンチャンネル (ARC) とは

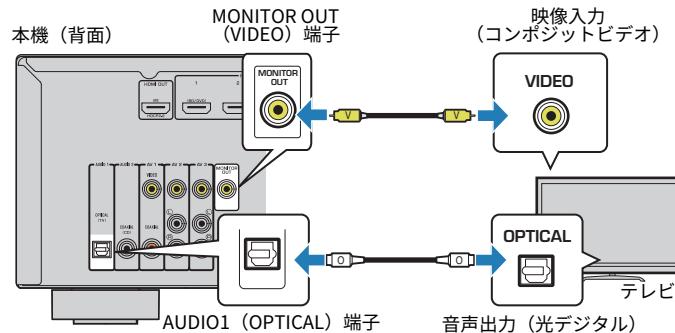
1 本の HDMI ケーブルで双方向の音声信号伝送が可能になります。ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルで本機とテレビを接続してください。

NOTE

- テレビが HDMI コントロールに対応している場合、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます。
- HDMI コントロールや ARC を使うには、あらかじめ設定が必要です。詳しくは「HDMI コントロールと連動機能」(92 ページ) および「オーディオリターンチャンネル (ARC)」(94 ページ) をご覧ください。
- 光デジタルケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。以下のような場合には、光デジタルケーブルを接続する必要はありません。
 - お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル (ARC) に対応している場合
 - テレビを衛星チューナーなどで視聴する場合（テレビ内蔵のチューナーを使用しない）

テレビをビデオ（コンポジット）接続する

映像用ピンケーブル（コンポジットケーブル）を使って、本機にテレビを接続します。



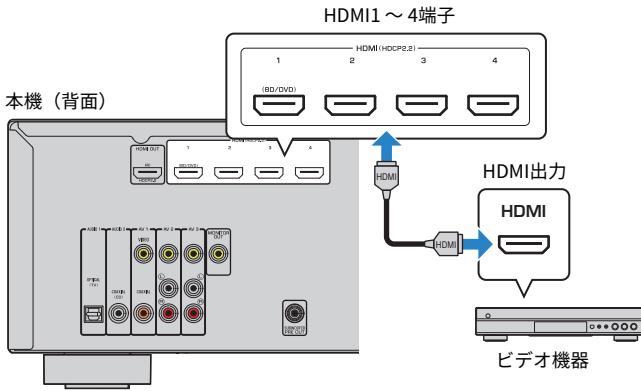
NOTE

- HDMI で接続したビデオ機器の映像は、コンポジットビデオ接続したテレビには出力できません。詳しくは「映像信号の流れ」(92 ページ) をご覧ください。
- コンポジットビデオ接続したテレビには、本機の各種機能の設定画面、USB 機器の選曲画面などは出力できません。
- 光デジタルケーブルはテレビの音声を本機で再生するために接続します。以下のような場合には、光デジタルケーブルを接続する必要はありません。
 - テレビを衛星チューナーなどで視聴する場合（テレビ内蔵のチューナーを使用しない）

3 AV 機器を接続する

BD/DVD レコーダーなどを HDMI 接続する

HDMI ケーブルを使って、本機に AV 機器を接続します。



NOTE

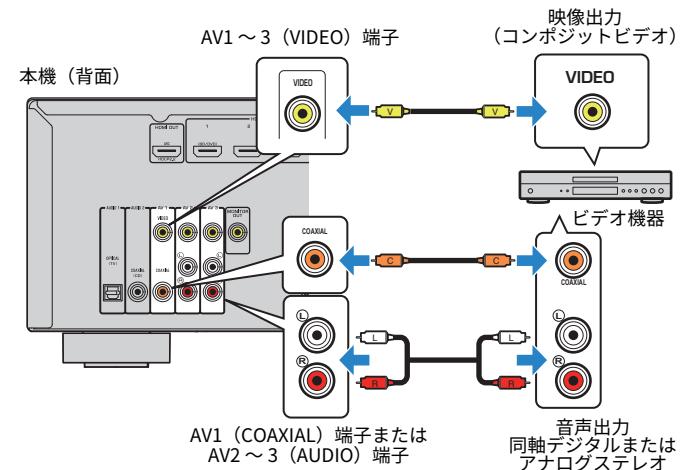
HDMI 接続した AV 機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の HDMI OUT 端子に接続する必要があります。接続方法については、「テレビを HDMI 接続する」(28 ページ) をご覧ください。

AV 機器を HDMI 以外で接続する

■ BD/DVD レコーダーなどをビデオ（コンポジット）接続する

映像用ピンケーブルと音声ケーブル（同軸デジタルまたはステレオピンケーブル）を使って、本機に BD/DVD レコーダーや衛星チューナーなどの AV 機器を接続します。AV 機器の音声出力端子により、本機側で使用する入力端子が異なります。

映像	ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子
	音声	同軸デジタル	
コンポジットビデオ	アナログステレオ	AV2～3	
	光デジタル	入力端子（映像/音声）の組み合わせを変更して接続します。	



NOTE

- 本機とビデオ（コンポジット）接続した AV 機器の映像をテレビで見るには、テレビを本機の MONITOR OUT (VIDEO) 端子に接続する必要があります。接続方法については、「テレビをビデオ（コンポジット）接続する」(28 ページ) をご覧ください。
- 本機の入力端子（映像/音声）の組み合わせが AV 機器と合わない場合は、本機の入力端子の組み合わせを、AV 機器の出力端子にあわせて変更します。変更方法については、「映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する（Audio In）」(57 ページ) をご覧ください。

■ CD プレーヤーなどを接続する

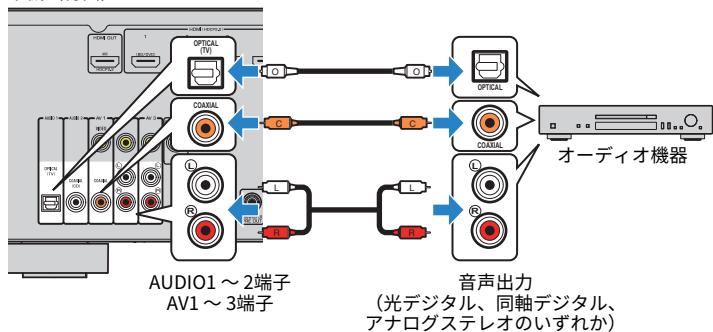
本機に CD プレーヤー、MD プレーヤーなどの AV 機器を接続します。
接続する AV 機器の音声出力端子により、接続方法を選んでください。

NOTE

本機にレコードプレーヤーを接続する場合は、フォノイコライザーアンプ（市販品）が必要です。
フォノイコライザーアンプの出力を本機に接続してください。

オーディオ機器の音声出力端子	本機の音声入力端子
光デジタル	AUDIO1
同軸デジタル	AUDIO2、AV1
アナログステレオ	AV2～3

本機（背面）



■ 本体前面の端子に AV 機器を接続する

携帯音楽プレーヤーなどの AV 機器を一時的に本機へ接続する場合は、前面の AUX 端子を利用すると便利です。

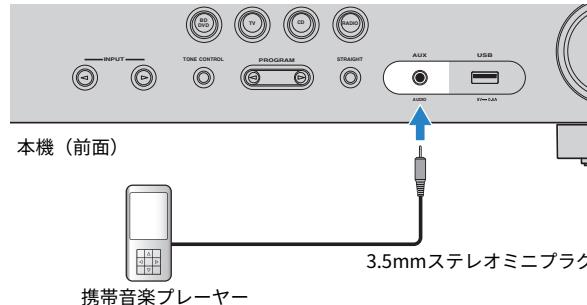


注意

- 接続する前に、AV 機器を停止して、本機の音量を十分に下げてください。突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

NOTE

AV 機器の音声出力端子に応じて、適切なケーブルをご用意ください。



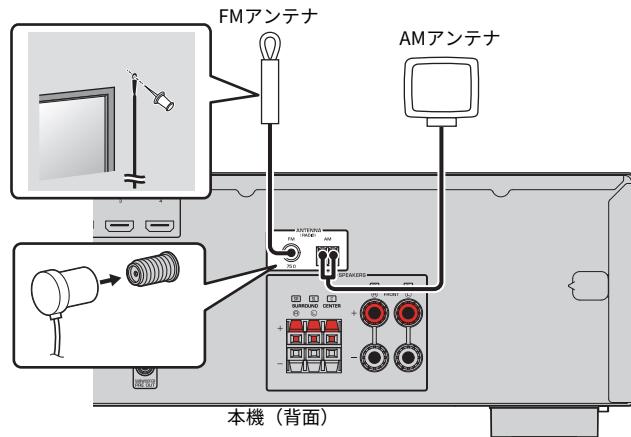
INPUT キーを繰り返し押して入力を「AUX」に切り替えると、接続した機器の音声が本機から出力されます。

4 FM/AM アンテナを接続する

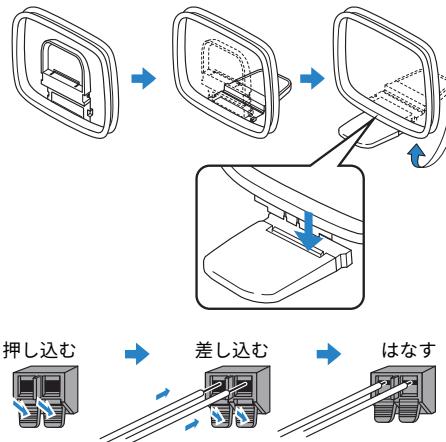
FM/AM アンテナを接続する

本機に付属の FM アンテナと AM アンテナを接続します。

接続後、FM アンテナは壁に固定し、AM アンテナは水平な場所に置いてください。



AM アンテナの組立と接続



NOTE

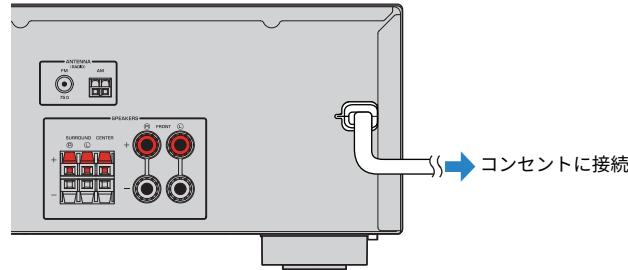
- AM アンテナのコードは、配線に必要な分だけをアンテナ本体からほどいてお使いください。
- AM アンテナのコードに極性はありません。

5 電源コードを接続する

電源コードを接続する

すべての接続が完了したら、本機の電源プラグをコンセントに差し込みます。

本機（背面）



6 スピーカー設定を行う

スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整します (YPAO : Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)。

NOTE

- テレビやスピーカーの接続が終わってから YPAO を実行してください。
- サラウンドスピーカーを使ったフロント 5.1 チャンネルシステム (バーチャルシネマフロント) をご使用になる場合は、YPAO の実行前に設定メニューの「バーチャルシネマフロント」を「オン」に設定してください。設定メニューの「バーチャルシネマフロント」については、「バーチャルシネマフロントを設定する」(64 ページ) をご覧ください。
- 測定中は大きな音を出力します。音量は調節できません。
- 測定中は部屋の後方の隅にとどまり、大きな音を出さないでください。スピーカーと YPAO 用マイクの間を遮ったり、大きな音を出したりすると正しく測定することができません。
- ヘッドホンは接続しないでください。

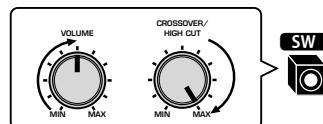
1 Ⓛ (レシーバー電源) キーで本機の電源を入れる。

2 テレビの電源を入れ、テレビ側の入力を本機 (HDMI OUT 端子) からの映像に切り替える。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。それ以外の方法で接続している場合は、前面ディスプレイを見ながら操作してください。

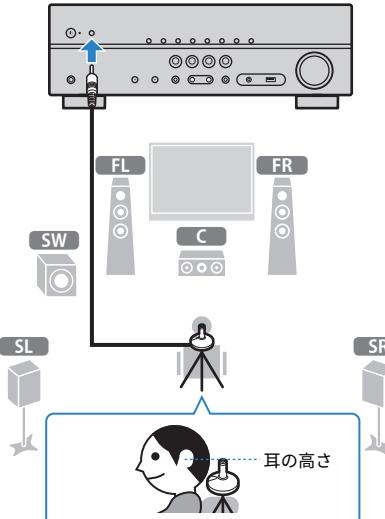
3 サブウーファーの電源を入れ、音量を半分に調節する。
クロスオーバー周波数を調節できる場合は最大にする。



4 付属の YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置き、前面の YPAO MIC 端子に接続する。

三脚などをマイクスタンドとして使用し、YPAO 用マイクを視聴位置 (耳の高さ) に置いてください。三脚のネジを使ってマイクを固定できます。

本機 (前面)



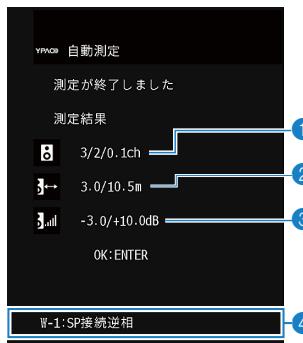
テレビに次の画面が表示されます。



5 測定を始めるには、カーソルキーで「スタート」を選び、ENTERキーを押す。

10秒後に測定が始まります。すぐに測定を始める場合は、ENTERキーを押します。所要時間は約3分です。

測定が終わると、テレビに次の画面が表示されます。



- ① スピーカーの本数（前方スピーカー/後方スピーカー/サブウーファー）
- ② スピーカーの距離（最も近いスピーカー/最も遠いスピーカー）
- ③ スピーカーの音量補正範囲
- ④ 警告メッセージ（発生時のみ）

NOTE

- 測定を一時中断するには、RETURNキーを押します。
- エラーメッセージ（E-1など）や警告メッセージ（W-1など）が表示された場合は「YPAOのエラーメッセージ一覧」（35ページ）または「YPAOの警告メッセージ一覧」（36ページ）をご覧ください。
- 警告メッセージの対象になっているスピーカーは、前面ディスプレイのスピーカー表示が点滅します。
- （前面ディスプレイでの操作時）複数の警告メッセージが生じた場合は、カーソルキー（△/▽）で表示を切り替えて確認してください。

6 測定結果を確認し、ENTERキーを押す。

7 測定結果を保存するには、カーソルキーで「保存」を選び、ENTERキーを押す。

補正されたスピーカー設定が反映されます。

NOTE

測定結果を保存せずに終了するには、「キャンセル」を選びます。

8 YPAO用マイクを本機から取り外す。

これでスピーカー設定は完了です。

注記

- YPAO用マイクは熱に弱いため、高温になる場所（AV機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

YPAO のエラーメッセージ一覧

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、以下の表をもとに原因を解決してください。

NOTE

カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

エラーメッセージ	原因	対策
E-1:フロント SP 無し (E-1:NO FRNT SP)	フロントスピーカーを検出できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーの接続を確認してください。
E-2:サラウンド SP 無し (E-2:NO SUR SP)	サラウンドスピーカーの片側を検出できない。	部屋が静かになってから再測定してください。「続行」を選んだ場合は、雑音を検出しても無視する条件で再測定します。
E-7:マイク未接続 (E-7:NO MIC)	測定中に YPAO 用マイクが外れた。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。
E-8:信号入力無し (E-8:NO SIGNAL)	YPAO 用マイクがテストトーンを検出できない。	YPAO 用マイクを YPAO MIC 端子にしっかりと接続してから、再測定してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9:測定キャンセル (E-9:CANCEL)	測定が中断された。	目的に応じて、再測定するか YPAO を終了してください。
E-10:内部エラー (E-10:INTERNAL)	内部エラーが発生した。	YPAO を終了してから、本機の電源を入れ直してください。このエラーが頻繁に表示される場合は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

YPAO のエラーメッセージ表示後の操作

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから以下の操作をしてください。

1 エラーメッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー (◁/▷) で目的の項目を選ぶ。

測定を終了する場合：

1 「終了」を選び、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー (△/▽) で「終了」を選び、ENTER キーを押す。

3 YPAO 用マイクを本機から取り外す。

再測定する場合：

「再測定」を選び、ENTER キーを押す。

現在の測定を続ける場合 (E-5、E-9 のみ選択可)：

「続行」を選び、ENTER キーを押す。

YPAO の警告メッセージ一覧

YPAO の測定後に警告メッセージ表示された場合は、以下の表をもとに原因を解決してください。

NOTE

カッコ内の表記は前面ディスプレイの表示です。

警告メッセージ	原因	対策
W-1:SP 接続逆相 (W-1:PHASE)	スピーカーの極性（+と-）が逆に接続されている可能性がある。	該当スピーカーのケーブル接続（+と-）を確認してください。 間違って接続されている場合： YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーケーブルを接続し直してください。 正しく接続されている場合： スピーカーの種類や設置環境によっては、正しく接続されてもこのメッセージが表示されることがあります。設定を保存し、そのままお使いください。 (お客様への確認を促すメッセージであり、そのままお使いいただいても本機の再生に影響はありません。)
W-2:距離補正限界 (W-2:DISTANCE)	スピーカーと視聴位置の距離が 24m を超えているため、正確に補正できない。	YPAO を終了してから、本機の電源を切り、該当スピーカーを視聴位置から 24m 以内に設置してください。
W-3:音量補正限界 (W-3:LEVEL)	スピーカー間の音量差が大きすぎるため、正確に補正できない。	各スピーカー間の使用環境やケーブル接続（+と-）、サブウーファーの音量が適切かどうか確認してください。問題がある場合は、YPAO を終了してから、本機の電源を切り、スピーカーの接続や配置を直してください。なるべく同じスピーカー、または性能が似ているスピーカーをお使いください。

YPAO の警告メッセージ表示後の操作

YPAO の測定中にエラーメッセージが表示された場合は、原因を解決してから以下の操作をしてください。

警告メッセージが表示されていても測定結果を保存できますが、最適なスピーカー設定で使用するには、原因を解決してから再度実行することをおすすめします。

1 警告メッセージの内容を確認し、ENTER キーを押す。

2 カーソルキー（ $\triangleleft/\triangleright$ ）で目的の項目を選ぶ。

測定結果を保存する場合：

「保存」を選び、ENTER キーを押す。

測定結果を保存しない場合：

「キャンセル」を選び、ENTER キーを押す。

再生する

基本操作

再生の基本操作

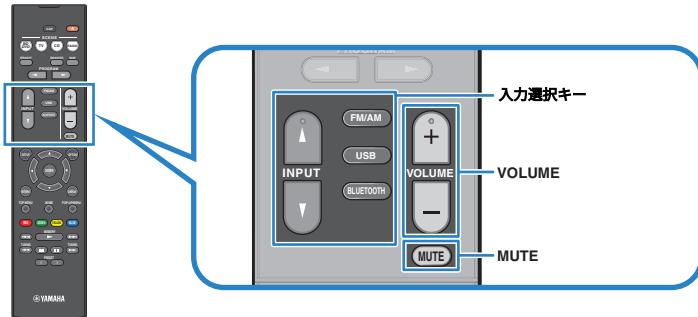
映像や音楽を再生する場合の基本的な操作方法を説明します。

NOTE

ここでは、本体前面ディスプレイの表示を使った操作方法を中心に説明します。

1 本機に接続した外部機器の電源を入れる。

2 入力選択キーで入力を選ぶ。



3 外部機器で再生を開始する、またはラジオ局を選ぶ。

4 VOLUME キーで音量を調節する。

NOTE

- MUTE キーで消音します。もう一度押すと消音を解除します。
- オプションメニューの「トーンコントロール」(Tone Control) または本体前面の TONE CONTROL キーで、高音域と低音域のバランスを調整できます。調整方法については、「出力される音声のトーンを調整する (Tone Control)」(54 ページ) をご覧ください。
- 外部機器の操作については、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

前面ディスプレイの表示を切り替える

本体前面の INFO キーを繰り返し押して、本機の前面ディスプレイの表示を切り替えられます。サラウンドデコーダーなどの情報を表示できます。



項目名

約 3 秒後に該当する情報が表示されます。



情報

入力グループ	項目
HDMI	
AV	
AUX	
AUDIO	Input (入力名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
Bluetooth	
USB	Song (曲名)、Artist (アーティスト)、Album (アルバム名)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)
TUNER	Frequency (周波数)、DSP Program (音場プログラム名など)、Audio Decoder (デコーダー名*)

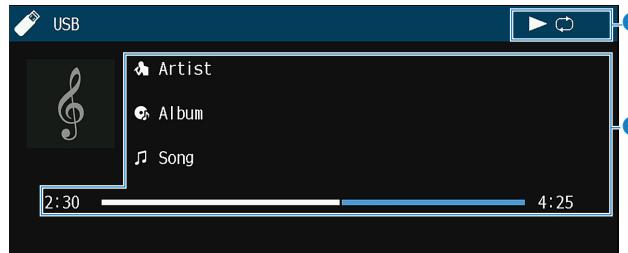
* 現在動作しているオーディオデコーダー名が表示されます。動作していない場合は「Decoder Off」と表示されます。

NOTE

- 入力により選択可能な項目が異なります。また表示項目は入力グループごとに記憶されます。
- 曲名やアーティスト名などの日本語は表示されません。「_」で表示されます。

再生画面の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに再生時表示される再生画面の名称と機能について説明します。



① 再生表示

再生 (再生/一時停止)、リピート再生の再生状態が表示されます。

② 再生情報

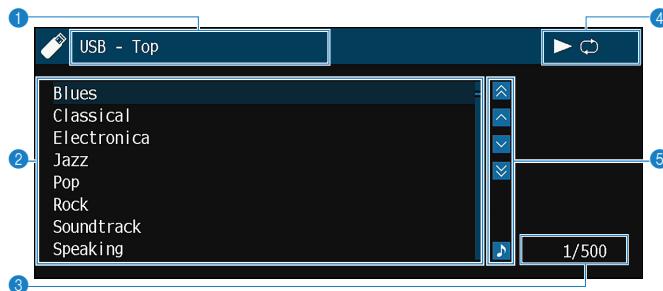
アーティスト名、アルバム名、曲名、再生時間/曲の長さなどが表示されます。

NOTE

- 再生内容によって表示が異なります。
- リモコンの外部機器操作キー (▶、◀、■、◀◀、▶▶) で再生操作ができます (外部機器によっては一部の機能を操作できない場合があります)。

ブラウズ画面の名称と機能

本機と HDMI 接続したテレビに表示されるブラウズ画面の名称と機能について説明します。ブラウズ画面は、入力を「USB」に選択したとき表示されます。



① リスト名

② コンテンツリスト

コンテンツ一覧が表示されます。カーソルキーでコンテンツを選び、ENTERキーを押します。

③ コンテンツ番号/総数

④ ステータス表示

リピート再生の設定、および再生状態（再生/一時停止など）が表示されます。

⑤ 操作メニュー

カーソルキー（▷）を押してから、カーソルキー（△/▽）でアイコンを選び、ENTERキーを押します。

アイコン	説明
▲	10 ページ上のリストを表示します。
^K	1 ページ上のリストを表示します。
▼	1 ページ下のリストを表示します。
▽	10 ページ下のリストを表示します。
♪	再生画面を表示します。

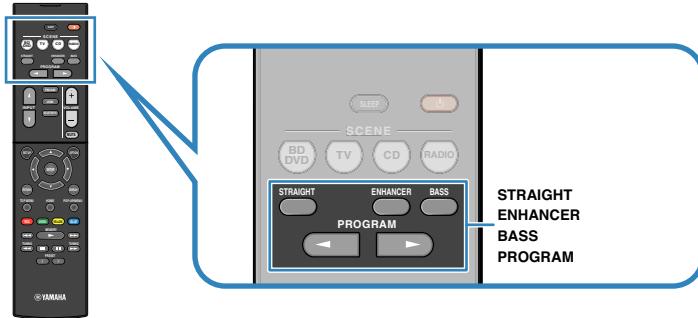
NOTE

- 再生内容によって表示が異なります。
- 本体前面ディスプレイにはカーソルで選択中のコンテンツ名が表示されます。

お好みのサウンドを選ぶ

お好みのサウンドを選ぶ

本機には、さまざまな音場プログラムやサラウンドデコーダーが備わっています。再生音に音場効果を加えたい場合や、ステレオ再生で音声を楽しみたい場合など、視聴する内容に応じて、お好みのサウンドを選んでください。



● 映画、テレビ番組、ゲームなどを楽しみたい場合

「映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ (MOVIE)」(41 ページ) で音場プログラムを選択します。

● 音楽鑑賞やステレオ再生を楽しみたい場合

「音楽鑑賞に適した音場プログラムを選ぶ (MUSIC)」(42 ページ) または「ステレオ再生に適した音場プログラムを選ぶ (STEREO)」(42 ページ) で音場プログラムやステレオ再生を選択します。

● 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しみたい場合

「拡張マルチチャンネルで再生する (サラウンドデコーダー)」(43 ページ) でサラウンドデコーダーを選びます。

● 音場効果をかけずに、オリジナルの音声を楽しみたい場合

「オリジナルチャンネルで再生する (ストレートデコード)」(43 ページ) でストレートデコードに切り替えます。

● より豊かな低音を楽しみたい場合

「低音を増強する (エクストラベース)」(44 ページ) でエクストラベースを有効にします。

● Bluetooth 機器や USB 機器などの圧縮音源を楽しみたい場合

「圧縮フォーマット (MP3 など) を厚みのある音で再生する (ミュージックエンハンサー)」(44 ページ) でミュージックエンハンサーを有効にします。圧縮音源に音の深みと広がりを加え、ダイナミックな再生音をお楽しみいただけます。

NOTE

- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。
- サンプリング周波数が 96kHz を超える音声の再生時は、自動的にストレートデコード (43 ページ) に切り替わります。
- 音声出力中のスピーカー端子は、本体前面ディスプレイのスピーカー表示で確認できます。
- 設定メニューの「リモコンカラーキー」で、リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE の各キーにサウンド選択の機能を割り当てるることができます。設定メニューの「リモコンカラーキー」については、「リモコンのカラーキーの機能を変更する」(73 ページ) をご覧ください。

音場効果をかけて再生する

■ 立体的な音場効果で再生する（シネマ DSP）

本機には、ヤマハ独自の音場技術（シネマ DSP）を使った各種の音場プログラムが備わっています。これにより、映画館やコンサートホールさながらのリアルな音場を簡単に再現し、自然で立体的な視聴空間をお楽しみいただけます。

CINEMA DSP

音場プログラムの種類



NOTE

- オプションメニューの「エフェクト量の加減」（DSP Level）で、音場プログラムのエフェクト量（音場効果のかかり具合）を調整できます。オプションメニューの「エフェクト量の加減」（DSP Level）については、「音場プログラムの効果量を調節する（DSP Level）」（55 ページ）をご覧ください。
- 音場プログラムは入力ごとに記憶されます。

■ 映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ（MOVIE）

PROGRAM キーを繰り返し押して、映像コンテンツに適した音場プログラムを選択します。シネマ DSP を使った音場プログラムの中の「MOVIE」には、映画、テレビ番組、ゲームなど、映像コンテンツに適した音場プログラムが含まれています。

Standard (スタンダード)	Dolby Digital、DTS、AACなどのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle (スペクタクル)	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi (サイファイ)	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保つつ各空間を鮮やかに再現します。
Adventure (アドベンチャー)	アクション&アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の広がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保つつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama (ドラマ)	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音やBGMを柔らかな響きで立体的に再現します。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie (モノムービー)	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。広がりと適度な残響が付加され、奥行がある心地よい空間が再現されます。
Sports (スポーツ)	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に広がり臨場感を体感できます。
Action Game (アクションゲーム)	カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、ゲームの中にいるような感覚が体感できます。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりダイナミックで力強い音場効果が体感できます。
Roleplaying Game (ロールプレイングゲーム)	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。BGM や効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。ミュージックエンハンサーと組み合わせることでよりクリアで奥行きのある音場効果が体感できます。

■ 音楽鑑賞に適した音場プログラムを選ぶ (MUSIC)

PROGRAM キーを繰り返し押して、音楽鑑賞に適した音場プログラムを選択します。シネマ DSP を使った音場プログラムの中の「MUSIC」には、音楽鑑賞に適した音場プログラムが含まれています。

Hall in Munich (ミュンヘン)	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに広がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は1階の中央左寄りです。	2ch Stereo (2ch ステレオ)	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャネル信号が入力されると、2チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます（シネマ DSP は使用しません）。
Hall in Vienna (ウィーン)	約 1700 席のウィーンの伝統的シーボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。	5ch Stereo (5ch ステレオ)	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 5 つのスピーカーから音が output され、ホームパーティーの BGM に最適です。
Chamber (チェンバー)	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。		
Cellar Club (セラークラブ)	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。		
The Roxy Theatre (ロキシーシアター)	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最大で 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。		
The Bottom Line (ボトムライン)	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。		
Music Video (ミュージックビデオ)	ポップス・ロック・ジャズなどのライブ映像をコンサート会場のイメージで楽しめます。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。		

■ ステレオ再生に適した音場プログラムを選ぶ (STEREO)

PROGRAM キーを繰り返し押して、ステレオ再生を選択します。

2ch Stereo (2ch ステレオ)	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャネル信号が入力されると、2チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカーから出力されます（シネマ DSP は使用しません）。
5ch Stereo (5ch ステレオ)	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。最大 5 つのスピーカーから音が output され、ホームパーティーの BGM に最適です。

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ (バーチャルシネマ DSP)

バーチャルシネマ DSP により、サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しめます。サラウンドスピーカーが接続されていない状態で音場プログラム（「2ch Stereo」、「5ch Stereo」以外）を選択すると、本機は前方のスピーカーだけで仮想スピーカーを構築し、自動的に後方の音場を創り出します。

■ 前方に設置した 5 本のスピーカーでサラウンド再生を楽しむ (バーチャルシネマフロント)

バーチャルシネマフロントを使うと、前方に設置した 5 本のスピーカーでマルチチャンネルサラウンド再生を楽しめます。サラウンドスピーカーを前方に設置して、設定メニューの「バーチャルシネマフロント」(V.C.FRONT) を「オン」(On) に設定すると、仮想サラウンドスピーカーを後方に構築します。

NOTE

設定メニューの「バーチャルシネマフロント」については、「バーチャルシネマフロントを設定する」(64 ページ) をご覧ください。

■ ヘッドホンでサラウンド再生を楽しむ(サイレントシネマ)

PHONES 端子にヘッドホンを接続して、音場プログラムやサラウンドデコーダーを選択すると、ステレオヘッドホンでもマルチチャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド感や音場効果を楽しめます。

SILENT™
CINEMA

音場効果をかけずに再生する

■ オリジナルチャンネルで再生する(ストレートデコード)

STRAIGHT キーを押してストレートデコードを有効にすると、CD などの 2 チャンネルソースを、音場効果をかけずにフロントスピーカーからステレオ音声で再生できます。マルチチャンネルソースの場合は、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。



ストレートデコードは、STRAIGHT キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

■ 拡張マルチチャンネルで再生する(サラウンドデコーダー)

PROGRAM キーを繰り返し押して、サラウンドデコーダーを選択します。前回選択していたサラウンドデコーダーが選択されます。サラウンドデコーダーを使うと、音場効果をかけずに 2 チャンネルソースをマルチチャンネルで再生します。また、マルチチャンネルソースの場合は、ストレートデコードと同様に機能します。

「SUR. DECODE」と表示



DPL	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
DPL Movie	Dolby Pro Logic II デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
DPL Music	Dolby Pro Logic II デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。
DPL Game	Dolby Pro Logic II デコーダーです。ゲームに適しています。
Neo:6 Cinema	DTS Neo:6 デコーダーです。映画鑑賞に適しています。
Neo:6 Music	DTS Neo:6 デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。

NOTE

- サラウンドデコーダーの種類は、オプションメニューの「サラウンドデコード」(SrDec) で切り替えられます。
- 各サラウンドデコーダーについては、「音声デコードフォーマットに関する用語」(89 ページ) をご覧ください。
- 各サラウンドデコーダーに関する設定は、設定メニューの「DSP パラメーター」で変更できます。設定メニューの「DSP パラメーター」については、「パノラマを設定する」(68 ページ)、「センターの広がりを調節する」(68 ページ)、「ディメンションを調節する」(68 ページ)、「センター定位の強さ（広がり感）を調節する」(68 ページ) をご覧ください。

低音を増強する

■ 低音を増強する（エクストラベース）

BASS キーを押して、エクストラベースを有効にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。エクストラベースは、BASS キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

NOTE

設定メニューの「エクストラベース」でも、エクストラベースを有効/無効にできます。設定メニューの「エクストラベース」については、「エクストラベースを設定する」（63 ページ）をご覧ください。

圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する

■ 圧縮フォーマット（MP3 など）を厚みのある音で再生する（ミュージックエンハンサー）

ENHANCER キーを押して、ミュージックエンハンサーを有効にすると、音に深みと広がりを加え、圧縮前の原音のようなダイナミックな再生音を楽しめます。この機能は音場プログラムと併用できます。

compressed music ENHANCER



ミュージックエンハンサーは、ENHANCER キーを押すたびに有効/無効が切り替わります。

NOTE

- ・ミュージックエンハンサーは、以下の音源には機能しません。
 - サンプリング周波数が 48kHz を超える音声
 - HD オーディオなど高解像度のストリーム音声
- ・オプションメニューの「エンハンサー」（Enhancer）でも、ミュージックエンハンサーを有効/無効にできます。オプションメニューの「エンハンサー」（Enhancer）については、「ミュージックエンハンサーを設定する（Enhancer）」（55 ページ）をご覧ください。

FM/AM ラジオを聞く

周波数を指定してラジオ局を選ぶ

周波数を指定して FM/AM ラジオを選局します。

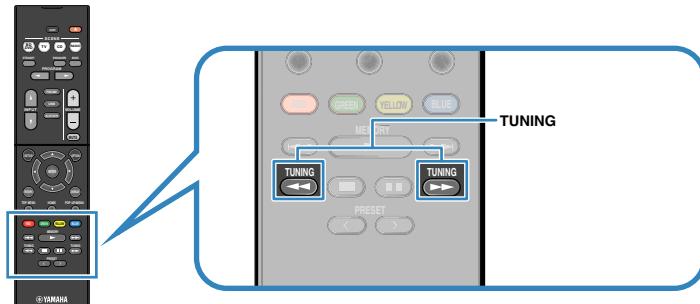
1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。



2 TUNING キーを押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。



ラジオ放送受信中は「TUNED」が点灯します。
ステレオ放送の場合は「STEREO」も点灯します。

NOTE

- 本機は FM 補完放送（ワイド FM）に対応しています。
- ラジオの受信感度が悪いときは、アンテナの向きを調節してください。
- FM ラジオをモノラルで受信するには、オプションメニューの「FM モード」（FM Mode）を「モノ」（Mono）に設定してください。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送を選択すると改善される場合があります。オプションメニューの「FM モード」（FM Mode）については、「FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する（FM Mode）」（58 ページ）をご覧ください。
- ラジオを聴きながら、外部機器の映像を楽しめます。映像を楽しむには、オプションメニューの「映像選択」（Video Out）で外部機器を接続している入力端子を選択してください。オプションメニューの「映像選択」（Video Out）については、「音声と同時に映像を出力する（Video Out）」（57 ページ）をご覧ください。

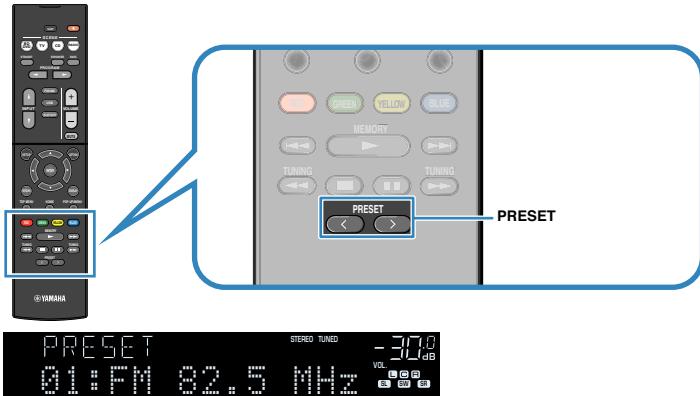
プリセット登録したラジオ局を呼び出す

プリセット番号に登録されている最大 40 局のラジオ局（プリセット局）の中から、聴きたいラジオ局を選択します。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 PRESET キーを繰り返し押して、プリセット局を選ぶ。



NOTE

ラジオ局が 1 つも登録されていない場合は、「No Presets」と表示されます。

ラジオ局を自動でプリセット登録する（オートプリセット）

信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。最大 40 局のラジオ局をプリセット登録できます。

NOTE

AM ラジオ局は手動で登録してください。詳しくは、「ラジオ局を手動でプリセット登録する」(47 ページ) をご覧ください。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキー（△/▽）で「Preset」を選び、ENTER キーを押す。



「AUTO」と表示され、登録するプリセット番号が表示されます。



最初に登録するプリセット番号

NOTE

登録を開始するプリセット番号を指定する場合は、PRESET キーまたはカーソルキー（◀/▶）でプリセット番号を選択します。

4 ENTER キーを押す。

オートプリセットが開始され、オートプリセット中は「SEARCH」と表示されます。

NOTE

オートプリセットを中止するには、RETURN キーを押します。

オートプリセットが終わると「FINISH」と表示され、オプションメニューが自動的に終了します。



ラジオ局を手動でプリセット登録する

ラジオ局を手動で選局し、プリセット番号に登録します。最大 40 局のラジオ局をプリセット登録できます。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

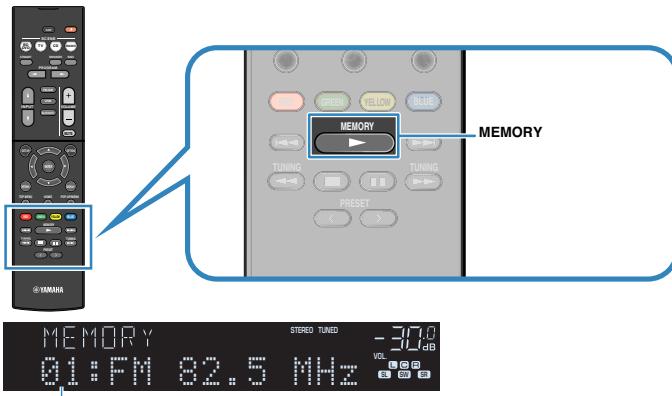
入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 TUNING キーを押し、周波数を切り替える。

約 1 秒押し続けると、自動で選局します。

3 MEMORY キーを数秒間押し続ける。

初回はプリセット番号「01」に、2 回目以降は前回登録したプリセット番号の次の空き番号にラジオ局が登録されます。



NOTE

登録先のプリセット番号を指定するには、登録したいラジオ局を受信中に MEMORY キーを一度押します。PRESET キーを押してプリセット番号を選択し、もう一度 MEMORY キーを押します。



これで登録は完了です。

ラジオ局のプリセット登録を解除する(クリアプリセット)

プリセット番号に登録されているラジオ局(プリセット局)の登録を解除します。

1 FM/AM キーを押し、FM/AM を切り替える。

入力が「TUNER」に切り替わり、次に選択中の周波数が表示されます。

2 OPTION キーを押す。

3 カーソルキー(△/▽)で「Preset」を選び、ENTER キーを押す。



4 カーソルキー(△/▽)で「CLEAR」を選ぶ。

5 カーソルキー(◀/▶)で登録を解除するプリセット番号を選び、ENTER キーを押す。



登録を解除するプリセット番号

登録が解除されると「Cleared」と表示され、次に登録されているプリセット番号が表示されます。



6 別のプリセット番号の登録を解除するには、手順 5 を繰り返す。

7 OPTION キーを押す。

これでプリセット登録の解除が完了です。

Bluetooth®接続で再生する

Bluetooth®機器を接続する（ペアリング）

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）を初めて本機に接続する場合は、ペアリングが必要です。ペアリングとは Bluetooth 機器同士をあらかじめ登録することです。一度ペアリングすると、Bluetooth 接続を切断してもそれ以降は簡単に再接続できます。

1 BLUETOOTH キーを押し、入力を「Bluetooth」に切り替える。

2 本体前面パネルまたはリモコンの MEMORY キーを 3 秒以上押す。

前面ディスプレイに「Searching...」と表示されます。

NOTE

- オプションメニューからも操作できます。オプションメニューの「ペアリング」(Pairing) で ENTER キーを押してください。
- 他の Bluetooth 機器と接続している場合は、他の機器との接続を切断してからペアリングを実行してください。
- ペアリングを中止するには MEMORY キーを押します。

3 お使いの Bluetooth 機器（スマートフォンなど）を操作して、Bluetooth 機能をオンにする。

4 使用可能なデバイスのリストから本機「*****Yamaha」を選ぶ。
（*****は本機のモデル名）

ペアリングが完了し Bluetooth 機器と接続すると、前面ディスプレイに「Connected」と表示されます。また接続中は Bluetooth インジケーターが点灯します。

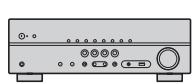


NOTE

- ペアリング中にパスキーの入力を要求された場合は、数字で「0000」を入力してください。
- ペアリングの操作は 30 秒以内に完了してください。
- Bluetooth 機器が見つからない場合は、前面ディスプレイに「Not found」と表示されます。

Bluetooth®機器の音声を本機で再生する

Bluetooth 機器（スマートフォンなど）に保存した音楽ファイルなどを本機で再生できます。



本機



Bluetooth 機器
(スマートフォンなど)

NOTE

- あらかじめ、「Bluetooth®機器を接続する（ペアリング）」（48 ページ）にしたがってペアリングを完了してください。
- Bluetooth 機能を利用するには、Bluetooth 機器の Bluetooth 機能がオンになっている必要があります。
- Bluetooth 機能を利用するには、設定メニューの「Bluetooth」が「オン」である必要があります。設定メニューの「Bluetooth」については、「Bluetooth を設定する」（74 ページ）をご覧ください。
- Bluetooth 機器（スマートフォンなど）と Bluetooth スピーカー/ヘッドホンを同時に使用できません。
- 対応している Bluetooth 機器については、「対応している Bluetooth 機器」（91 ページ）をご覧ください。

1 Bluetooth 機器を操作し、使用可能なデバイスのリストから本機（本機の名称）を選ぶ。

本機の入力が自動的に「Bluetooth」に切り替わります。

2 Bluetooth 機器を操作して音声を再生する。

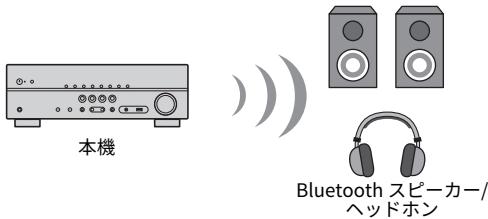
本機と HDMI で接続したテレビを使用している場合は、テレビに再生画面が表示されます。

NOTE

- 接続済みの Bluetooth 機器を検出した場合は、手順 1 のあと自動的にその Bluetooth 機器に接続されます。別の Bluetooth 機器と接続するには、まず現在の Bluetooth 接続を切断します。
- 接続時に入力が自動的に切り替わらないようにするには、オプションメニューの「入力連動」（Input Interlock）で「オフ」（Off）を選択します。
- 前回接続した Bluetooth 機器には、本機側の操作だけで接続できます。次のいずれかの操作をしてください。
 - 入力を「Bluetooth」に切り替え、ENTER キーを押す。
 - 入力を「Bluetooth」に切り替え、オプションメニューの「接続」（Connect）で ENTER キーを押す。
- 接続できない場合は、再度ペアリングしてください。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
 - Bluetooth 機器で切断操作をする。
 - ENTER キーを押す。
 - 本機の入力を「Bluetooth」以外に切り替える。
 - オプションメニューの「切断」（Disconnect）で ENTER キーを押す。
 - 設定メニューの「デバイス切断」で ENTER キーを押す。

本機の音声を Bluetooth®対応スピーカー/ヘッドホンで再生する

本機で再生している音声を Bluetooth スピーカー/ヘッドホンに出力できます。以下の手順に従って、Bluetooth スピーカー/ヘッドホンと本機を接続し、再生する音声を出力します。



NOTE

- 本機に接続したスピーカーからも再生音が出ます。
- DSD の音声は送信できません。
- Bluetooth スピーカー/ヘッドホンと Bluetooth 機器（スマートフォンなど）を同時に使用できません。

1 リモコンの入力選択キーで再生したい入力を選ぶ。

「Bluetooth」以外を選択してください。

2 SETUP キーを押す。

3 カーソルキー (△/▽) で「Bluetooth」を選び、ENTER キーを押す。

4 カーソルキー (△/▽) で「Transmit」を選ぶ。

5 カーソルキー (◀/▶) で「On」を選ぶ。

6 カーソルキー (△/▽) で「Device Search」を選び、ENTER キーを押す。

Bluetooth 機器の一覧が表示されます。

7 本機と接続したい Bluetooth スピーカー/ヘッドホンをカーソルキー (△/▽) で選び、ENTER キーを押す。

接続が完了すると Bluetooth スピーカー/ヘッドホンから音声が出力されます。

NOTE

- 接続したい Bluetooth 機器が一覧に表示されない場合は、Bluetooth 機器をペアリング状態にしてから、再度「Device Search」を実行してください。
- Bluetooth 機器との接続を切断するには、次のいずれかの操作をします。
 - Bluetooth 機器で切断操作をする。
 - 設定メニューの「音声送信機能」を「オフ」に設定する。

USB 機器の曲を再生する

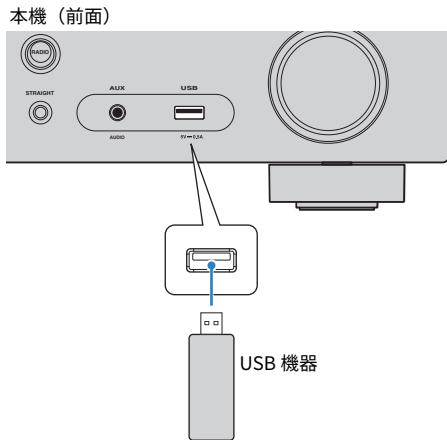
USB 機器の曲を再生する

USB 機器に保存されている音楽ファイルなどを本機で再生します。USB 機器の曲の選択や再生は、テレビ画面を見ながら操作できます。

NOTE

- 対応している USB 機器については、「対応している USB 機器」(91 ページ) をご覧ください。
- 再生できるファイルフォーマットについては「対応しているフォーマット」(91 ページ) をご覧ください。
- テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

1 USB 機器を USB 端子に接続する。



NOTE

- ファイル数が多いと読み込みに時間がかかる場合があります。この場合、本体前面ディスプレイに「Loading...」と表示されます。
- USB 機器は再生を停止させてから取り外してください。
- USB 機器は直接本機の USB 端子に接続してください。延長ケーブルなどは使わないでください。
- 本機がスタンバイ中は、USB 機器の充電はできません。

2 USB キーを押し、入力を「USB」に切り替える。

テレビにブラウズ画面が表示されます。

NOTE

USB 機器側で再生状態が続いている場合は、再生画面が表示されます。

3 カーソルキーでコンテンツを選び、ENTER キーを押す。

選択したコンテンツの再生が始まり、テレビに再生画面が表示されます。

NOTE

- 1 つ前の画面に戻るには、RETURN キーを押します。
- ブラウズ画面/再生画面/画面オフを切り替えるには、DISPLAY キーを押します。

NOTE

入力に「USB」が選択されている状態で、オプションメニューの「リピート」(Repeat) を設定すると、曲のリピート再生ができます。オプションメニューの「リピート」(Repeat) については「リピート再生を設定する (Repeat)」(58 ページ) をご覧ください。

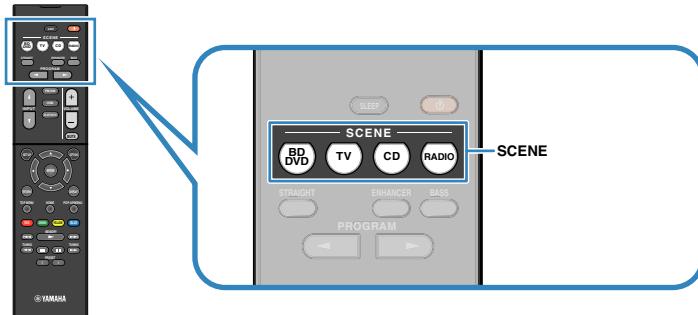
便利な再生機能

入力と設定をワンタッチで切り替えるシーン機能について (SCENE キー)

シーン機能を使うと、入力選択と同時に、あらかじめ登録した音場プログラム、ミュージックエンハンサーのオン/オフなどをワンタッチで切り替えられます。シーン機能はリモコンの SCENE キー (4 種類) に登録してあり、登録内容は変更もできます。

SCENE キーに登録したシーンを呼び出す

SCENE キーを押して、登録しているシーンをワンタッチで呼び出します。本機がスタンバイ時は、電源も入ります。



各 SCENE キーの登録内容 (初期値) は以下のとおりです。

SCENE キー	(BD/DVD)	(TV)	(CD)	(RADIO)
入力	HDMI1	AUDIO1	AUDIO2	TUNER
音場プログラム	MOVIE (Sci-Fi)	STRAIGHT	STRAIGHT	STEREO (5ch Stereo)
ミュージックエンハンサー	オフ	オン	オフ	オン
シーン運動	オン	オン	オフ	オフ

NOTE

- シーン運動を使うと、シーン選択時に HDMI で本機に接続したテレビの電源を入れたり、外部機器の再生を開始したりできます。シーン運動を有効にするには、設定メニューの「シーン運動」で該当シーンを「オン」に設定してください。設定メニューの「シーン運動」については、「シーン運動を設定する」(67 ページ) をご覧ください。
- ARC 機能対応テレビの場合は、SCENE (TV) キーに登録されている入力を、「AV2」に変更してください。ARC 機能については、「テレビを HDMI 接続する」(28 ページ) をご覧ください。

SCENE キーの登録内容を変更する

各 SCENE キーの登録内容を初期値から変更できます。

NOTE

登録したい入力の映像や音声を視聴しながら、登録することをおすすめします。

1 本機を SCENE キーに登録したい状態にする。

- 登録したい入力を選ぶ。
- 登録したい音場プログラムを選ぶ。または、音場効果をかけずに再生する。
- ミュージックエンハンサーを設定する。
- シーン運動を設定する。

2 本体前面ディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録先とする SCENE キーを押し続ける。



これで登録は完了です。

NOTE

シーン運動を設定するには、「シーン運動を設定する」(67 ページ) をご覧ください。

再生ソースに合わせて設定する（オプションメニュー）

再生機能を変更する（オプションメニュー）

オプションメニューの基本的な操作方法を説明します。オプションメニューでは、再生中のソースにあわせて、本機の再生関連の機能を設定します。オプションメニューは本体前面ディスプレイでもテレビ画面でも操作できます。前面ディスプレイを使えば、必要なときに簡単に設定を変更できます。

NOTE

テレビ画面を見ながら操作するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

1 リモコンの OPTION キーを押す。



前面ディスプレイ



テレビ画面

2 カーソルキー（△/▽）で設定項目を選び、ENTER キーを押す。

NOTE

1つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

3 カーソルキー（◀/▶）で設定値を選ぶ。

4 OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

各メニューの初期値は「オプションメニュー初期値一覧」（100 ページ）をご覧ください。

オプションメニュー一覧

NOTE

- 選択中の入力に適用可能な項目のみが表示されます。
- カッコ内の表記は、本体前面ディスプレイの表示です。

項目	説明	ページ	
入力切替 (Input Select)	入力を切り替えます。	54	
トーンコントロール (Tone Control)	音声の高音域と低音域音量を、それぞれ調整します。	54	
プログラム (PRG)	音場プログラムやステレオ再生を選択します。	41	
DSP/サラウンド (DSP/Surround)	サラウンドデコード (SrDec)	プログラムで「サラウンドデコード」を選択時に、使用するデコーダーを選択します。	43
エフェクト量の加減 (DSP Level)	音場プログラムのエフェクト量を調節します。	55	

項目	説明	ページ
DSP/サラウンド (DSP/Surround)	アダプティブ DRC (A.DRC) 音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節するか設定します。	55
	多重モノラル音声 (Dual Mono) 多重音声入力時の出力音声を設定します。	55
	エンハンサー (Enhancer) ミュージックエンハンサーを有効/無効にします。	55
再生レベル補正 (Volume Trim)	入力レベル補正 (In.Trim) 入力間の音量差を補正します。	56
	サブウーファーベル補正 (SW.Trim) 再生中にサブウーファーの音量を微調整します。	56
リップシンク設定 (Lipsync)	設定メニューの「リップシンク」で設定した補正值を有効/無効にします。	56
信号情報 (Signal Info.)	映像/音声信号に関する情報を表示します。	56
音声入力 (Audio In)	選択した入力の映像とほかの端子の音声を組み合わせます。	57
映像選択 (Video Out)	選択した入力の音声と同時に出力する映像を設定します。	57
FM モード (FM Mode)	FM ラジオの受信方法(ステレオ/モノラル)を選択します。	58
プリセット (Preset)	オートプリセット 信号の強い FM ラジオ局を自動でプリセット番号に登録します。	46
	クリアプリセット プリセット番号に登録されているラジオ局 (プリセット局) の登録を解除します。	47
リピート (Repeat)	曲のリピート再生を設定します。	58
ペアリング (Pairing)	本機と Bluetooth 機器をペアリングします。	48
接続 (Connect)	本機と Bluetooth 機器を接続/切断します。	49
切断 (Disconnect)		

項目	説明	ページ
入力連動 (Input Interlock)	Bluetooth 接続時、自動的に入力を「Bluetooth」に切り替えるかどうかを選択します。	49

入力を切り替える (Input Select)

入力を切り替えます。カーソルキーで選択し、ENTER キーを押すと選択中の入力に切り替わります。

オプションメニュー

「入力切替」(Input Select)

出力される音声のトーンを調整する (Tone Control)

出力される音声の高音域 (Treble) と低音域 (Bass) の音量を、それぞれ調整します。

オプションメニュー

「トーンコントロール」(Tone Control)

選択項目

高音 (Treble)、低音 (Bass)

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

NOTE

- ・「高音」(Treble) と「低音」(Bass) の両方が 0.0dB の場合は、「バイパス」(Bypass) と表示されます。
- ・本体前面のキーでも調整できます。TONE CONTROL キーで「Treble」または「Bass」を選び、PROGRAM キーで調整してください。
- ・極端な設定にすると、音のつながりが悪くなる場合があります。

DSP/サラウンドの設定を変更する (DSP/ Surround)

■ 音場プログラムの効果量を調節する (DSP Level)

音場プログラムのエフェクト量（音場効果のかかり具合）を調整します。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「エフェクト量の加減」(DSP Level)

設定値

-6dB～+3dB (1dB 単位)

■ アダプティブ DRC を設定する (A.DRC)

音量調節に連動して、ダイナミックレンジ（最大音量と最小音量の差）を自動的に調節する場合に設定します。「オン」(On) にすると、音量が小さいときはダイナミックレンジが狭まり、大きいときは広がります。夜間に再生するときなど小音量でも聴きやすくなります。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「アダプティブ DRC」(A.DRC)

設定値

オン (On) ダイナミックレンジを自動的に調節する。

オフ (Off) ダイナミックレンジを自動的に調節しない。

■ モノラル多重音声入力時の出力音声を設定する (Dual Mono)

地上デジタル/BS デジタル放送など、モノラル多重音声入力時の出力音声を設定します。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「多重モノラル音声」(Dual Mono)

設定値

主音声と副音声をフロントスピーカーから同時に出力する。

すべて (All) PCM 信号の左右振り分けは、デジタル放送チューナーの設定により異なります。

主音声 (Main)

主音声をフロントスピーカーから出力する。

副音声 (Sub)

副音声をフロントスピーカーから出力する。

■ ミュージックエンハンサーを設定する (Enhancer)

ミュージックエンハンサーを使用する場合に設定します。

オプションメニュー

「DSP/サラウンド」(DSP/Surround) > 「エンハンサー」(Enhancer)

設定値

オフ (Off) ミュージックエンハンサーを無効にする。

オン (On) ミュージックエンハンサーを有効にする。

NOTE

- 入力ごとに個別に設定できます。
- ミュージックエンハンサーはリモコンの ENHANCER キーでも設定できます。操作については、「圧縮フォーマット (MP3 など) を厚みのある音で再生する」(44 ページ)をご覧ください。

再生時の音量差を調整する (Volume Trim)

■ 入力間の音量差を調整する (In.Trim)

入力間の音量差を補正します。入力切り替え時に音量の増減が気になる場合は、この設定を使って微調整してください。

オプションメニュー

「再生レベル補正」(Volume Trim) > 「入力レベル補正」(In.Trim)

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

NOTE

入力ごとに個別に設定できます。

■ サブウーファーの音量を調整する (SW.Trim)

サブウーファーの音量を微調整します。

オプションメニュー

「再生レベル補正」(Volume Trim) > 「サブウーファーレベル補正」(SW.Trim)

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

リップシンク補正を使用するか設定する (Lipsync)

設定メニューの「リップシンク」で設定した補正值を使用するか設定します。

NOTE

設定メニューの「リップシンク」については、「リップシンクの調整方法を設定する」(69 ページ) をご覧ください。

オプションメニュー

「リップシンク設定」(Lipsync)

設定値

オフ (Off) リップシンクによる補正を無効にする。

オン (On) リップシンクによる補正を有効にする。

NOTE

入力ごとに個別に設定できます。

映像/音声信号情報を確認する (Signal Info.)

映像/音声信号に関する情報を表示します。

オプションメニュー

「信号情報」(Signal Info.)

選択項目

信号方式 (FORMAT) 入力信号の音声フォーマット

チャンネル (CHANNEL) 入力信号のチャンネル数 (フロント/サラウンド/LFE)
「3/2/0.1」と表示されている場合、フロント 3ch、サラウンド 2ch、LFE 0.1ch

サンプリング (SAMPLING) 入力デジタル信号の 1 秒あたりのサンプル数

映像入力 (VIDEO IN) 入力中のデジタル映像信号の種類と解像度

映像出力 (VIDEO OUT) 出力中のデジタル映像信号の種類と解像度

NOTE

本体前面ディスプレイの表示項目を切り替えるには、カーソルキー (△/▽) を繰り返し押します。

映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する (Audio In)

映像入力端子と音声入力端子の組み合わせを変更します。選択した入力の映像と他の端子の音声を組み合わせて再生できます。以下の場合にご利用ください。

- 映像は HDMI、音声は HDMI 以外で出力する再生機器を本機に接続する。

オプションメニュー

「音声入力」(Audio In)

設定可能な映像入力

HDMI1～4、AV1～3

設定値

AV1～3、AUDIO1～2

本機の映像/音声入力端子

ビデオ機器の出力端子		本機の入力端子	
映像	音声	映像	音声
HDMI	光デジタル	HDMI1～4	AUDIO1
	同軸デジタル	HDMI1～4	AUDIO2、AV1
	アナログステレオ	HDMI1～4	AV2～3
コンポジットビデオ	光デジタル	AV1～3	AUDIO1

設定例

例として、映像は AV2 (VIDEO)、音声は AUDIO1 (OPTICAL) 端子に接続した場合の設定手順を説明します。

- INPUT キーで入力を「AV2」(映像を入力する端子)に切り替えます。
- OPTION キーを押す。

- カーソルキー (△/▽) で「Audio In」を選び、ENTER キーを押す。



- カーソルキー (◀/▶) で「AUDIO1」(音声を入力する端子)を選ぶ。



- OPTION キーを押す。

これで設定は完了です。

音声と同時に映像を選択する (Video Out)

選択した入力の音声と同時に映像を設定します。この設定を使うと、たとえば、ラジオを聴きながら他の入力の映像を表示できます。

オプションメニュー

「映像選択」(Video Out)

設定可能な音声入力

AUDIO1～2、TUNER、USB、Bluetooth、AUX

設定値

オフ (Off) 映像を表示しない。

HDMI1～4、AV1～3 選択した入力の映像を表示する。

FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する（FM Mode）

FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を選択します。FM ラジオ局の受信が不安定なときに、モノラル放送に切り替えると改善される場合があります。

オプションメニュー

「FM モード」（FM Mode）

設定値

ステレオ（Stereo） FM ラジオをステレオで受信する。

モノ（Mono） FM ラジオをモノラルで受信する。

リピート再生を設定する（Repeat）

リピート再生を設定します。

オプションメニュー

「リピート」（Repeat）

設定値

オフ（Off） リピート再生を無効にする。

1 曲（One） 現在の曲を繰り返し再生する。

すべて（All） アルバム（フォルダー）内の曲を繰り返し再生する。

ランダム（Random） アルバム（フォルダー）内の曲をランダムに再生する。

設定する

機能設定を変更する（設定メニュー）

機能設定を変更する（設定メニュー）

テレビ画面を使った設定メニューの基本的な操作方法を説明します。設定メニューでは、本機の詳細機能を設定します。

NOTE

設定メニューをテレビ画面に表示するには、テレビと本機を HDMI で接続する必要があります。

1 リモコンの SETUP キーを押す。

2 カーソルキーでメニューを選び、ENTER キーを押す。



3 カーソルキーで設定項目を選び、ENTER キーを押す。

NOTE

メニュー操作中、1 つ前の画面に戻るには RETURN キーを押します。

4 カーソルキー（◀/▶）で設定値を選び、ENTER キーを押す。

5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

各メニューの初期値は「設定メニュー初期値一覧」（100 ページ）をご覧ください。

設定メニュー一覧

NOTE

カッコ内の表記は、本機前面ディスプレイの表示です。

メニュー	項目	説明	ページ
スピーカー設定 (Speaker Setup)	サブウーファー (Subwoofer)	サブウーファーの有無を設定します。	62
	フロント (Front)	フロントスピーカーのサイズを選択します。	62
	センター (Center)	センタースピーカーの有無やサイズを選択します。	62
	サラウンド (Sur. LR)	サラウンドスピーカーの有無やサイズを選択します。	63
	低音クロスオーバー (Crossover)	「小」に設定したスピーカーが出力可能な低音域成分の下限周波数を設定します。	63
	サブウーファー位相 (SWFR Phase)	サブウーファーの位相を設定します。	63
	エクストラベース (Extra Bass)	エクストラベースを有効/無効にします。	63
	バーチャルシネマフロント (V.C.FRONT)	バーチャルシネマフロントを使うかどうかを設定します。	64
	距離 (Distance)	スピーカーの距離を個別に設定します。	64
	音量 (Level)	スピーカーの音量を個別に設定します。	64
HDMI 設定 (HDMI Setup)	イコライザー (Equalizer)	イコライザーを使って音色を調節します。	65
	テストトーン (Test Tone)	テストトーン出力を有効/無効にします。	65
	HDMI コントロール (Control)	HDMI コントロールを有効/無効にします。	66
	音声出力 (Audio Out)	音声を TV スピーカーから出力するかどうかを設定します。	66
	4K アップスケーリング (4K Upscale)	HDMI 端子へ入力された映像信号を 4K アップスケーリングするかどうかを設定します。	66
	TV 音声入力 (TVAudio)	テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。	66
	スタンバイ連動 (Sync)	HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるかどうかを設定します。	67
	ARC (ARC)	ARC を有効/無効にします。	67
	シーン連動 (SCENE)	シーン連動を有効/無効にします。	67

メニュー	項目	説明	ページ		
音声設定 (Sound Setup)	パノラマ (Panorama)	フロント音場の広がり感を調節します。	68		
	DSP パラメーター (DSP Parameter)	センターの広がり (CT Width)	センター・チャンネル音声の左右への広がりを調節します。	68	
		ディメンション (Dimension)	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。	68	
		センターイメージ (C.Image)	フロント音場のセンター定位の強さ (広がり感) を調節します。	68	
		リップシンク (Lipsync)	自動/手動選択 (Select)	映像と音声の出力タイミングのずれを補正する方法を選択します。	69
			調整 (Adjustment)	映像と音声のずれを手動で調整します。	69
		ダイアローグ (Dialogue)	セリフ音量調整 (Level)	中央に定位する音 (セリフなど) の音量を調整します。	69
			音量表示 (Scale)	音量の表示方式を切り替えます。	69
		音量 (Volume)	ダイナミックレンジ (DRC)	Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を選択します。	69
			音量の上限 (MaxVol)	リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。	70
			音量の初期値 (IniVol)	電源を入れたときの音量を設定します。	70
	エコ設定 (ECO Setup)	自動スタンバイ (AutoPowerStandby)	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにします。	71	
エコモード (ECO Mode)		エコモード (消費電力の節約) を有効/無効にします。	71		
ファンクション設定 (Func. Setup)	入力名変更 (Input Rename)	前面ディスプレイやテレビ画面に表示する、入力の名称を変更します。	72		
	入力スキップ (Input Skip)	INPUT キーを操作した時にスキップする入力を設定します。	73		
	明るさ (Dimmer)	前面ディスプレイの明るさを調節します。	73		
	設定保護 (Memory Guard)	設定を保護して、変更できないようにします。	73		
	リモコンカラーキー (Rem. ColorKey)	リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE のキーに本機の機能を設定します。	73		
	Bluetooth (Bluetooth)	Bluetooth 機能を有効/無効にします。	74		
Bluetooth 設定 (Bluetooth)	音声受信	デバイス切断 (Disconnect)	Bluetooth 機器 (スマートフォンなど) と本機との Bluetooth 接続を切斷します。	49	
		Bluetooth スタンバイ (Standby)	Bluetooth 機器から本機の電源を入れる機能 (Bluetooth スタンバイ) を有効にするかどうかを選択します。	74	
	音声送信	音声送信機能 (Transmit)	Bluetooth の音声送信機能を有効/無効にします。	50	
		デバイス検索 (Device Search)	本機の Bluetooth 音声送信機能が有効の場合、接続できる Bluetooth 機器 (スピーカー/ヘッドフォンなど) を検索します。	50	
言語設定 (OSD Language)	テレビ画面の表示言語を設定します。	74			

スピーカー設定

サブウーファーの有無を設定する

サブウーファーの接続状況に合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サブウーファー」

設定値

	サブウーファーを接続している場合に選択する。
使用する	LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた音声がサブウーファーから出力されます。
	サブウーファーを接続しない場合に選択する。
使用しない	低音域の音声はフロントスピーカーから出力されます。

フロントスピーカーのサイズを設定する

接続したフロントスピーカーのサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「フロント」

設定値

	フロントスピーカーが小さい場合に選択する。
小	フロントチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーから出力されます。
	フロントスピーカーが大きい場合に選択する。
大	フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。

NOTE

- 使用するスピーカーのウーファー部口径が16cm以上の場合は「大」、16cm未満の場合は「小」を目安に設定してください。
- 設定メニューの「サブウーファー」が「使用しない」の場合は、自動的に「大」が選択されます。設定メニューの「サブウーファー」については、「サブウーファーの有無を設定する」(62ページ)をご覧ください。

センタースピーカーの有無やサイズを設定する

センタースピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「センター」

設定値

	センタースピーカーが小さい場合に選択する。
小	センターチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
	センタースピーカーが大きい場合に選択する。
大	センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。

NOTE

サイズ選択では、使用するスピーカーのウーファー部口径が16cm以上の場合は「大」、16cm未満の場合は「小」を目安にしてください。

サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する

サラウンドスピーカーの接続状況やサイズに合わせて設定値を選択します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サラウンド」

設定値

	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択する。
小	サラウンドチャンネルの低音域（「低音クロスオーバー」で周波数を設定可）は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。
大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択する。 サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
無	サラウンドスピーカーを接続しない場合に選択する。 サラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーから出力され、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP に切り替わります。

NOTE

サイズ選択では、使用的するスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合には「大」、16cm 未満の場合は「小」を目安にしてください。

低音クロスオーバーの周波数を設定する

スピーカーサイズを「小」に設定したスピーカーが出力できる低音域の周波数を、設定値から選択します。

設定値より低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「低音クロスオーバー」

設定値

40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

NOTE

サブウーファー側で音量やクロスオーバー周波数を調節できる場合は、音量を半分に、クロスオーバー周波数を最大にしてください。

サブウーファーの位相を設定する

接続したサブウーファーの位相に合わせて設定値を選択します。視聴位置で低音が弱く感じるときに、位相を変更すると改善される場合があります。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「サブウーファー位相」

設定値

正相	サブウーファーの位相を反転しない。
逆相	サブウーファーの位相を反転する。

NOTE

設定メニューの「サブウーファー」が「使用しない」の場合は設定できません。設定メニューの「サブウーファー」については、「サブウーファーの有無を設定する」（62 ページ）をご覧ください。

エクストラベースを設定する

低音を増強する場合にエクストラベースを設定します。「オン」にすると、フロントスピーカーの大きさやサブウーファーの有無に関わらず、より豊かな低音を楽しめます。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「エクストラベース」

設定値

オフ	エクストラベースを無効にする。
オン	エクストラベースを有効にする。

NOTE

リモコンの BASS キーでも、エクストラベースを有効/無効にできます。

バーチャルシネマフロントを設定する

バーチャルシネマフロントを使用する場合に設定します。バーチャルシネマフロントについては、「5.1 システム（バーチャルシネマフロント）」（26 ページ）をご覧ください。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「構成」>「バーチャルシネマフロント」

設定値

オフ	バーチャルシネマフロントを使用しない。
オン	バーチャルシネマフロントを使用する。

NOTE

設定メニューの「サラウンド」が「無」の場合は設定できません。設定メニューの「サラウンド」については、「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」（63 ページ）をご覧ください。

スピーカーの距離を個別に設定する

各スピーカーの音が視聴位置に同時に届くように設定値を調節します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「距離」

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

設定値

0.30m～24.00m（1.0ft～80.0ft）、0.05m（0.2ft）単位

NOTE

「単位」で「メートル」、「フィート」を切り替えられます。

スピーカーの音量を個別に調整する

各スピーカーの音が視聴位置で同じに聴こえるように設定値を調節します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「音量」

選択項目

フロント左、フロント右、センター、サラウンド左、サラウンド右、サブウーファー

設定値

-10.0dB～+10.0dB（0.5dB 単位）

NOTE

テストトーンを出力して実際の効果を確認しながら調整できます。テストトーンについては、「テストトーンを出力する」（65 ページ）をご覧ください。

イコライザーを設定する

音色を調節する場合にイコライザーを設定します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「イコライザー」>「イコライザー選択」

設定値

PEQ	YPAO の自動測定で得たパラメトリックイコライザーの値を適用する。
GEQ	イコライザーの値を手動で調節する。
オフ	イコライザーを使用しない。

GEQ 設定時

- 1 カーソルキー（△/▽）で「チャンネル」を選び、カーソルキー（◀/▶）で調節するスピーカーチャンネルを選ぶ。
- 2 カーソルキー（△/▽）で周波数を選び、カーソルキー（◀/▶）でレベルの強さを調節する。

設定値

-6.0dB～+6.0dB (0.5dB 単位)

- 3 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

- テストトーンを出力して実際の効果を確認しながら調整できます。テストトーンについては、「テストトーンを出力する」(65 ページ) をご覧ください。
- 設定値「PEQ」は YPAO の自動測定を行った場合のみ選択できます。YPAO の自動測定については、「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(33 ページ) をご覧ください。

テストトーンを出力する

実際の効果を確認しながらスピーカーの音量やイコライザーを調節する場合に、テストトーンを出力します。

設定メニュー

「スピーカー設定」>「テストトーン」

設定値

オフ	テストトーンを出力しない。
オン	テストトーンを出力する。

HDMI 設定

HDMI コントロールを設定する

HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を、本機と連動させる場合に HDMI コントロールを設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「HDMI コントロール」

設定値

オフ	HDMI コントロールを無効にする。
	HDMI コントロールを有効にする。
オン	「TV 音声入力」、「スタンバイ連動」、「ARC」、「シーン連動」の設定が適用されます。

NOTE

設定値を「オン」に設定しただけでは、HDMI コントロールは機能しません。HDMI コントロール対応のテレビや再生機器を本機に接続後、連動設定が必要になります（92 ページ）。

HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オフ」を選択した場合に、音声を HDMI OUT 端子に接続したテレビのスピーカーから出力するか設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「音声出力」

設定値

オフ	テレビから出力しない。
オン	テレビから出力する。

HDMI 映像信号の 4K アップスケーリングを設定する

HDMI 端子へ入力された映像信号を 4K アップスケーリングするか設定します。「オン」を選択すると、1080p コンテンツを 4K 解像度で表示します。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「4K アップスケーリング」

設定値

オフ	4K アップスケーリングしない。
オン	4K アップスケーリングする。

テレビからの音声を入力する端子を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声出力端子と接続した本機の音声入力端子を選択します。テレビ側の入力設定を内蔵チューナー（テレビ）に切り替えると、本機の音声入力が自動的にテレビ音声に切り替わります。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「TV 音声入力」

設定値

AV1～3、AUDIO1～2

NOTE

ARC 使用時は、ここで選択した入力がテレビ音声入力用として使用されます。

本機とテレビのスタンバイ連動を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、HDMI コントロールでテレビと本機の電源スタンバイを連動させるか設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「スタンバイ連動」

設定値

オフ	テレビと本機の電源スタンバイを連動させない。
オン	テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。
自動	本機がテレビ音声入力中または HDMI 信号入力中のみ、テレビの電源スタンバイに連動して本機もスタンバイにする。

ARC を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、テレビの音声を本機に接続したスピーカーから出力するか設定します。

設定メニュー

「HDMI 設定」>「ARC」

設定値

オフ	ARC を無効にする。
オン	ARC を有効にする。

NOTE

通常は設定値を「オン」(初期値) から変更する必要はありません。本機が非対応の音声信号がテレビから入力されてノイズが発生する場合のみ、「オフ」に設定してください。この場合は、テレビ側のスピーカーをお使いください。

シーン連動を設定する

設定メニューの「HDMI コントロール」で「オン」を選択した場合に、SCENE キーのシーン連動を設定します。シーン連動を使うと、シーン選択時に本機に接続した HDMI コントロール対応の外部機器が次のように連動します。

- ・テレビの電源「入」、入力の切り替え
- ・再生機器の再生開始

設定メニュー

「HDMI 設定」>「シーン連動」

選択項目 (SCENE キー)

BD/DVD、TV、CD、RADIO

オフ	選択した SCENE キーのシーン連動を無効にする。
オン	選択した SCENE キーのシーン連動を有効にする。

NOTE

- ・機器の相性などにより、シーン連動が正しく機能しない場合があります。
- ・HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

パノラマを設定する

パノラマ（フロント音場の広がり感）を設定します。サラウンドデコーダーで「DPL Music」を選択した場合に、フロントチャンネル音声を左右に大きく回り込ませて、サラウンド音場とつながるような広がり感が増加します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「パノラマ」

設定値

オフ	パノラマを無効にする。
オン	パノラマを有効にする。

センターの広がりを調節する

サラウンドデコーダーで「DPL Music」を選択した場合に、センターチャンネル音声の左右への広がりを調節します。値を大きくすると左右に広がり、小さくするとセンターに近づきます。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「センターの広がり」

設定値

0～7

ディメンションを調節する

サラウンドデコーダーで「DPL Music」を選択した場合に、フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節します。値を大きくするとフロント音場が強くなり、小さくするとサラウンド音場が強くなります。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「ディメンション」

設定値

-3～+3

センター定位の強さ（広がり感）を調節する

サラウンドデコーダーで「Neo:6 Music」を選択した場合に、フロント音場のセンター定位の強さ（広がり感）を調節します。値を大きくするとセンター定位が強まり広がり感が減少し、小さくするとセンター定位が弱まり広がり感が増加します。

設定メニュー

「音声設定」>「DSP パラメーター」>「センターイメージ」

設定値

0.0～1.0

NOTE

サラウンドデコーダーについては、「拡張マルチチャンネルで再生する（サラウンドデコーダー）」（43 ページ）をご覧ください。

リップシンクの調整方法を設定する

映像と音声の出力タイミングのずれを補正（リップシンク）する方法を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「リップシンク」>「自動/手動選択」

設定値

手動補正	映像と音声のずれを手動で調整する。 「調整」で入力した値が補正值として適用されます。
自動補正	映像と音声のずれを自動で調整する。（自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合のみ有効） 必要に応じて、「調整」で補正時間を微調整できます。

NOTE

オプションメニューの「リップシンク設定」（Lipsync）で、入力ごとに補正值を適応するか設定できます。オプションメニューの「リップシンク設定」（Lipsync）については、「リップシンク補正を使用するか設定する（Lipsync）」（56 ページ）をご覧ください。

リップシンクの補正值を調整する

映像と音声の出力タイミングのずれの補正值（リップシンク）を調整します。設定メニューの「自動/手動選択」で「自動補正」に設定したときは、自動補正された値をさらに微調整できます。

設定メニュー

「音声設定」>「リップシンク」>「調整」

設定値

0ms～500ms（1ms 単位）

セリフの音量を調整する

セリフが聴こえにくい場合に、中央に定位する音（セリフなど）の音量を調整します。

設定メニュー

「音声設定」>「ダイアローグ」>「セリフ音量調整」

設定値

0～3（値が大きいほど強調）

音量表示の単位を設定する

音量表示の単位を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「音量」>「音量表示」

設定値

dB	dB（デシベル）単位で表示します。
0-97	数値（0.5～97.0）で表示します。

ダイナミックレンジの調節方法を設定する

Dolby Digital や DTS 信号再生時のダイナミックレンジの調節方法を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「音量」>「ダイナミックレンジ」

設定値

最大	入力信号を補正せずに再生する。
標準	家庭での使用に適したダイナミックレンジで再生する。
最小/自動	夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジで再生する。 Dolby TrueHD 再生時は、入力信号の情報にもとづいて再生されます。

音量の上限を設定する

リモコンの VOLUME キーなどで調節可能な音量の上限値を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「音量」>「音量の上限」

設定値

-30.0dB～+15.0dB (5.0dB 単位)、+16.5dB [50.0～95.0 (5.0 単位)、97.0]

電源を入れたときの音量を設定する

電源を入れたときの音量を設定します。

設定メニュー

「音声設定」>「音量」>「音量の初期値」

設定値

オフ 前回電源をスタンバイにしたときの音量を適用する。

ミュート 消音を適用する。

-80.0dB～+16.5dB

(0.5dB 単位) 指定した音量を適用する。

[0.5～97.0 (0.5 単位)] (「音量の上限」より低く設定した場合のみ有効)

エコ設定

自動スタンバイまでの時間を設定する

本機の電源を自動的にスタンバイにするまでの時間を設定します。

設定メニュー

「エコ設定」>「自動スタンバイ」

設定値

オフ	電源を自動的にスタンバイにしない。
20分	本機を20分間操作しなかったとき、かつ本機が20分間入力信号を検知しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。
2時間、4時間、8時間、12時間	本機を指定時間操作しなかったときに電源を自動的にスタンバイにする。

NOTE

スタンバイになる直前、本体前面ディスプレイに「AutoPowerStdby」と、スタンバイに切り替わるまでの秒数が表示されます。

エコモードを設定する

消費電力を低減する場合にエコモードを設定します。「オン」に設定した場合は、ENTERキーを押して必ず本機を再起動してください。新しい設定は、再起動後に反映されます。

設定メニュー

「エコ設定」>「エコモード」

設定値

オフ	エコモードを無効にする。
オン	エコモードを有効にする。

NOTE

- 「オン」に設定時は、本体前面ディスプレイの表示が暗くなることがあります。
- 大きな音量で再生する場合は「オフ」に設定してください。

ファンクション設定

前面ディスプレイに表示する入力名を自動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を自動名称変更機能で生成された名称から選択します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「入力名変更」

対象の入力

HDMI1~4、AUDIO1~2、AV1~3

1 カーソルキー（△/▽）で名称を変更する入力を選ぶ。

2 カーソルキー（◀/▶）で「自動」を選ぶ。

接続機器に応じて、本機が自動的に名称を生成します。

3 別の入力の名称を変更するには、手順1~2を繰り返す。

4 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

NOTE

「自動」を選択時、機器の接続を外しても入力名は保持されます。初期値に戻すには、一度「手動」に切り替えてから「自動」に戻してください。

前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する

本体前面ディスプレイに表示する入力の名称を、手動で設定します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「入力名変更」

対象の入力

HDMI1~4、AUDIO1~2、AV1~3、USB、Bluetooth、AUX

1 カーソルキー（△/▽）で名称を変更する入力を選ぶ。

2 カーソルキー（◀/▶）で「手動」を選び、ENTER キーを押す。

3 カーソルキーや ENTER キーを使って名称を編集し、「確定」を選び ENTER キーを押す。

NOTE

- 入力した内容を取り消すには、「取消」を選択します。
- 「リセット」を選択した場合は、入力の名称の初期値が表示されます。

4 別の入力の名称を変更するには、手順1~3を繰り返す。

5 SETUP キーを押す。

これで設定は完了です。

入力スキップを設定する

INPUTキーを操作したときにスキップする入力を設定します。使用しない入力をスキップすることで、目的の入力を素早く選べます。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「入力スキップ」

対象の入力

HDMI1~4、AUDIO1~2、AV1~3、TUNER、USB、Bluetooth、AUX

設定値

オフ	スキップ設定しない。
オン	スキップ設定する。

前面ディスプレイの明るさを設定する

本体前面ディスプレイの明るさを調節します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「明るさ」

設定値

-4~0（値が大きいほど明るい）

NOTE

本機をエコモードに設定すると、ここで設定した明るさよりも暗くなることがあります。エコモードについては、「エコモードを設定する」（71 ページ）をご覧ください。

設定を保護する

本機の設定を保護して、変更できないようにします。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「設定保護」

設定値

オフ	設定を保護しない。
オン	設定を保護する。「オフ」に戻すまで、設定変更が禁止されます。

NOTE

「オン」に設定時は、メニュー画面に設定保護（）アイコンが表示されます。

リモコンのカラーキーの機能を変更する

リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの機能を設定します。

設定メニュー

「ファンクション設定」>「リモコンカラーキー」

設定値

初期値	HDMI で接続された再生機器の機能にしたがう。
入力	各キーに本機の入力を割り当てる。割り当てる入力は個別に設定できます。
対象の入力	HDMI1~4、AUDIO1~2、AV1~3、TUNER、USB、Bluetooth、AUX
プログラム	各キーにサウンド選択の機能を割り当てる。 RED : MOVIE GREEN : MUSIC YELLOW : STEREO BLUE : SUR.DECODE

NOTE

たとえば RED キーを繰り返し押して、お好みの音場プログラムを MOVIE の中から選べます。詳しくは、「映像コンテンツに適した音場プログラムを選ぶ（MOVIE）」（41 ページ）をご覧ください。

Bluetooth

Bluetooth を設定する

Bluetooth 機能を使用する場合に設定します。

設定メニュー

「Bluetooth 設定」>「Bluetooth」

設定値

オフ	Bluetooth 機能を無効にする。
オン	Bluetooth 機能を有効にする。

Bluetooth スタンバイを設定する

Bluetooth 機器から本機の電源操作をする場合に設定します。「オン」にすると、Bluetooth 機器で接続操作が行われたとき、自動的に本機の電源が入りります。

設定メニュー

「Bluetooth 設定」>「音声受信」>「Bluetooth スタンバイ」

設定値

オフ	Bluetooth スタンバイ機能を無効にする。
オン	Bluetooth スタンバイ機能を有効にする。(「オフ」に設定した場合より多くの電力がかかります。)

言語設定

メニュー言語を設定する

テレビ画面に表示するメニュー（設定メニューなど）の言語を設定します。

設定メニュー

「言語設定」

設定値

English	英語
日本語	日本語
Français	フランス語
Deutsch	ドイツ語
Español	スペイン語
русский	ロシア語
Italiano	イタリア語
中文	中国語

NOTE

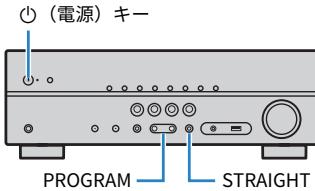
- 本体前面ディスプレイは常に英語で表示されます。
- 本体前面ディスプレイで表現できない文字は「_」表示に置き換わります。

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

システム設定を変更する（アドバンスドセットアップメニュー）

本体前面ディスプレイを使ったアドバンスドセットアップメニューの基本的な操作方法を説明します。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源をスタンバイにする。
- 2 本体の STRAIGHT キーを押しながら ⏻（電源）キーを押す。



アドバンスドセットアップメニューの先頭の設定項目とその設定値が、前面ディスプレイに表示されます。

- 3 PROGRAM キーで設定項目を選ぶ。
- 4 STRAIGHT キーで設定値を選ぶ。
- 5 ⏻（電源）キーで、電源をスタンバイにしてから再度電源を入れる。

これで設定は完了です。

NOTE

各メニューの初期値は「アドバンスドセットアップメニュー初期値一覧」（101 ページ）をご覧ください。

アドバンスドセットアップメニュー一覧

項目	説明	ページ
REMOTE ID	本体側のリモコン ID を変更します。	75
TV FORMAT	HDMI 映像出力のビデオ信号方式を切り替えます。	76
4K MODE	HDMI 4K 信号のフォーマットを設定します。	76
INIT	各種設定を初期化します。	77
UPDATE	ファームウェアを更新します。	77
VERSION	本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。	77

リモコン ID を設定する（REMOTE ID）

本体側のリモコン ID を、リモコン側のリモコン ID（初期値：ID1）と一致するように設定します。複数のヤマハ製 AV レシーバーをお使いの場合、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないようにしてください。

REMOTE ID... ID1

アドバンスドセットアップメニュー

「REMOTE ID」

設定値

ID1、ID2

リモコン側のリモコン ID 設定

- リモコンを ID1 に設定するには、カーソルキー（↖）を押しながら SCENE (BD/DVD) キーを 3 秒間押し続けます。
- リモコンを ID2 に設定するには、カーソルキー（↖）を押しながら SCENE (TV) キーを 3 秒間押し続けます。

ビデオ信号方式を設定する (TV FORMAT)

お使いのテレビにあわせて、本機の HDMI OUT 端子から出力されるビデオ信号方式を設定します。本機はテレビにあったビデオ信号方式を自動的に選択して出力するため、通常は変更する必要はありません。テレビの映像が乱れる場合のみ変更してください。

TU FORMAT: NTSC

アドバンスドセットアップメニュー

「TV FORMAT」

設定値

NTSC、PAL

HDMI 4K 信号のフォーマットを設定する (4K MODE)

HDMI 4K 対応のテレビおよび再生機器を接続したときに、本機が入出力する信号のフォーマットを設定します。

4K MODE: MODE 1

アドバンスドセットアップメニュー

「4K MODE」

設定値

下表に記載の 4K 信号を入出力する。

MODE 1 接続機器や HDMI ケーブルによっては、映像が乱れる場合があります。その場合は、「MODE 2」に設定してください。

MODE 2 下表に記載の 4K 信号を入出力する。

NOTE

「MODE 1」に設定した場合は、Premium HDMI ケーブルまたはイーサネット対応 Premium HDMI ケーブルをご使用ください。

フォーマット

		MODE 1			MODE 2		
		8 bit	10 bit	12 bit	8 bit	10 bit	12 bit
4K/60, 50 Hz	RGB 4:4:4	✓	-	-	-	-	-
	YCbCr 4:4:4	✓	-	-	-	-	-
	YCbCr 4:2:2	✓		-	-	-	-
	YCbCr 4:2:0	✓	-	✓	-	-	-
4K/30, 25, 24 Hz	RGB 4:4:4	✓	-	✓	-	-	-
	YCbCr 4:4:4	✓	-	✓	-	-	-
	YCbCr 4:2:2	✓	-	-	✓	-	-

設定を初期化する (INIT)

本機の各種設定を初期化します。

INIT CANCEL

アドバンスドセットアップメニュー

「INIT」

選択項目

ALL すべての設定を初期化する。

CANCEL 初期化しない。

ファームウェアバージョンを確認する (VERSION)

本機にインストールされているファームウェアのバージョンを表示します。

VERSION XX . XX

アドバンスドセットアップメニュー

「VERSION」

ファームウェアを更新する (UPDATE)

本機のファームウェアを更新します。

本機への機能追加や不具合の改善に応じて、ファームウェアは更新されることがあります。最新のファームウェアは弊社ウェブサイトからダウンロードできます。詳しくは、ファームウェア更新時に提供される情報をご確認ください。

UPDATE USB

アドバンスドセットアップメニュー

「UPDATE」

注記

- ファームウェア更新中は、本機を操作したり電源コードやUSB機器を抜いたりしないでください。万一、中断したときは本機が使えなくなることがあります。その場合は、持ち込み修理が必要となります。

NOTE

ファームウェア更新時以外は実行しないでください。また実行前には、更新時に提供される情報を必ずご確認ください。

付録

こんな場合の解決方法

別のスピーカーに交換したら、音のバランスが以前より悪くなった

- スピーカーを交換した場合やスピーカーシステムを変更した場合は、YPAO（自動測定）を実行してスピーカー設定を再調整してください。詳しくは「スピーカー設定を自動で調整する（YPAO）」（33 ページ）をご覧ください。手動でスピーカー設定を調整する場合は、設定メニューの「スピーカー設定」をご利用ください。

音量が大きくならないようにしたい

- 誤って本体やリモコンを操作して突然音量が大きくなると、事故や故障につながる恐れがあります。

設定メニューの「音量の上限」で、調節可能な音量の上限値をあらかじめ設定してください。詳しくは「音量の上限を設定する」（70 ページ）をご覧ください。

電源を入れた時の音量を一定にしたい

- 初期状態では、電源をスタンバイにしたときの音量設定が、次回電源を入れたときにそのまま適用されます。

音量を一定にしたい場合は、設定メニューの「音量の初期値」で、電源を入れたときの音量を設定してください。詳しくは「電源を入れたときの音量を設定する」（70 ページ）をご覧ください。

入力によって音量が違う

- 入力ごとの音量差を補正できます。

オプションメニューの「入力レベル補正」（In.Trim）をご利用ください。詳しくは「入力間の音量差を調整する（In.Trim）」（56 ページ）をご覧ください。

HDMI コントロールが機能しない

- HDMI コントロールを使うには、HDMI コントロール対応機器どうしの連動設定が必要になります。

HDMI コントロール対応機器（テレビ、BD/DVD レコーダーなど）を本機に接続後、各機器の HDMI コントロール設定を有効にしてから、連動設定を行ってください。詳しくは「HDMI コントロールと連動機能」（92 ページ）をご覧ください。

この設定は HDMI コントロール対応機器を追加するたびに必要です。

HDMI コントロールを使ってテレビと再生機器間で操作できる機能については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

入力名を変更したい

- 初期状態では、入力名（HDMI1、AV1 など）が前面ディスプレイに表示されます。

ほかの名称に変更したい場合は、設定メニューの「入力名変更」で表示名を設定してください。詳しくは「前面ディスプレイに表示する入力名を手動設定する」（72 ページ）をご覧ください。

設定変更を禁止したい

- スピーカー設定など、本機の各種設定の変更を禁止できます。
設定メニューの「設定保護」を「オン」に設定してください。詳しくは「設定を保護する」(73 ページ)をご覧ください。

本機のリモコンを操作すると、別のヤマハ製機器が同時に動いてしまう

- 複数のヤマハ製機器をお使いの場合、本機のリモコンを操作すると別の機器が同時に動いたり、ほかのリモコンを操作すると本機が動いたりすることがあります。
それぞれのリモコンで各機器を操作するために、リモコン ID が重ならないように設定してください。詳しくは「リモコン ID を設定する (REMOTE ID)」(75 ページ)をご覧ください。

本機の入力端子（映像/音声）の組み合わせが外部機器と合わない

- 本機の入力端子の組み合わせを、外部機器の出力端子にあわせて変更できます。
オプションメニューの「音声入力」(Audio In)をご利用ください。詳しくは「映像入力に組み合わせる他端子の音声入力を選択する (Audio In)」(57 ページ)をご覧ください。

テレビの映像とスピーカーの音声がズれている

- 映像と音声の出力タイミングを調整できます。
設定メニューの「リップシンク」をご利用ください。詳しくは「リップシンクの調整方法を設定する」(69 ページ)をご覧ください。

テレビのスピーカーから音声を出力したい

- 本機に入力された音声の出力先を設定できます。
設定メニューの「音声出力」をご利用ください。詳しくは「HDMI の音声を TV スピーカーから出力するか設定する」(66 ページ)をご覧ください。

ファームウェアを更新したい

- 本機のファームウェアを更新します。
アドバンスドセットアップメニューの「UPDATE」をご利用ください。詳しくは「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(77 ページ)をご覧ください。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら最初にご確認ください

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、最初に以下をご確認ください。

- ・本機、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源プラグがコンセントにしっかりと接続されている。
- ・本機、サブウーファー、テレビ、再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の電源が入っている。
- ・各機器間のケーブルが端子にしっかりと接続されている。

電源や配線に問題がない場合は、以下をご確認ください。

対処しても正常に動作しない、または以下のトラブル以外で異常が認められた場合は、本機の電源を切り、電源プラグを抜いて、お買い上げ店または巻末の「お問い合わせ窓口」にお問い合わせください。

電源/システム/リモコンのトラブル

■ 電源が入らない

- 保護回路が3回続けて作動した（電源を入れようとすると、本体前面のスタンバイ表示が点滅する）。

製品保護のために電源が入らなくなっています。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。

■ 電源が切れない

- 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

本体の（電源）キーを15秒以上押して本機を再起動してください。
問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

■ 電源がすぐに切れてしまう

- スピーカーケーブルがショートしている状態で電源を入れようとしている。

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは「スピーカーケーブルの加工・接続時のご注意」（23ページ）をご覧ください。

■ 電源が自動的にスタンバイに切り替わる

- スリープタイマーが作動した。

もう一度電源を入れて、再生を始めてください。

- 操作がない状態で一定時間が経過したため、自動スタンバイ機能が作動した。

自動スタンバイ機能を無効にするには、設定メニューの「自動スタンバイ」を「オフ」に設定してください。詳しくは「自動スタンバイまでの時間を設定する」（71ページ）をご覧ください。

- スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。

各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。詳しくは「スピーカーケーブルの加工・接続時のご注意」（23ページ）をご覧ください。

- 音量を上げすぎたため、保護回路が作動した。

音量を下げてください。設定メニューの「エコモード」が「オン」の場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは「エコモードを設定する」（71ページ）をご覧ください。

■ 本機が操作を受け付けない

- 外部電気ショック（落雷、過度の静電気など）や、電源電圧の低下により、内部マイコンがフリーズしている。

本体の ⓧ（電源）キーを 15 秒以上押して本機を再起動してください。

問題が解決しない場合は、コンセントから電源ケーブルのプラグを抜き、再度差し込んでください。

■ リモコンで本機を操作できない

- 操作範囲から外れている。

操作範囲内で操作してください。詳しくは「リモコンの操作範囲」（14 ページ）をご覧ください。

- 乾電池が消耗している。

新しい乾電池に交換してください。

- 本体のリモコン信号受光部に日光や強い照明が当たっている。

照明または本体の向きを変えてください。

- 本体とリモコンの ID が一致していない。

本体側またはリモコン側のリモコン ID を変更してください。詳しくは「リモコン ID を設定する（REMOTE ID）」（75 ページ）をご覧ください。

■ INPUT キーを押しても目的の入力を選択できない

- 入力をスキップする設定がされている。

設定メニューの「入力スキップ」で対象の入力を「オフ」に設定してください。詳しくは「入力スキップを設定する」（73 ページ）をご覧ください。

■ リモコンの RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーが動作しない

- HDMI 接続した機器が RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応していない。

RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの操作に対応した機器をご使用ください。

- RED、GREEN、YELLOW、BLUE キーの設定を変更している。

設定メニューの「リモコンカラーキー」を「初期値」に設定してください。詳しくは「リモコンのカラーキーの機能を変更する」（73 ページ）をご覧ください。

音声のトラブル

■ 音が出ない

- 別の入力が選択されている。

入力選択キーで正しい入力を選んでください。

- 本機で再生できない信号が入力されている。

一部のデジタル音声フォーマットは本機で再生できません。入力信号の音声フォーマットは、オプションメニューの「信号情報」（Signal Info.）で確認できます。詳しくは「映像/音声信号情報を確認する（Signal Info.）」（56 ページ）をご覧ください。

- 本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。

接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ 音量が上がらない

- 音量の上限値が低く設定されている。

設定メニューの「音量の上限」で上限値を調節してください。詳しくは「音量の上限を設定する」（70 ページ）をご覧ください。

- 本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。

該当機器すべての電源を入れてください。

■ 特定のスピーカーから音が出ない

● 再生ソースに該当チャンネルの信号が含まれていない。

オプションメニューの「信号情報」(Signal Info.) にある「チャンネル」(CHANNEL) で、入力信号のチャンネル数を確認できます。詳しくは「映像/音声信号情報を確認する (Signal Info.)」(56 ページ) をご覧ください。

● 該当スピーカーを使用しない音場プログラムやデコーダーが選択されている。

設定メニューの「テストトーン」で、スピーカーから音声が出力されるか確認できます。詳しくは「テストトーンを出力する」(65 ページ) をご覧ください。

● 該当スピーカーの音声出力が無効になっている。

YPAO を実行するか、設定メニューの「構成」で該当スピーカーのサイズまたは有無を設定してください。詳しくは以下をご覧ください。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(33 ページ)
- 「サブウーファーの有無を設定する」(62 ページ)
- 「フロントスピーカーのサイズを設定する」(62 ページ)
- 「センタースピーカーの有無やサイズを設定する」(62 ページ)
- 「サラウンドスピーカーの有無やサイズを設定する」(63 ページ)

● 該当スピーカーの音量が極端に小さい。

YPAO を実行するか、設定メニューの「音量」で該当スピーカーの音量を調節してください。詳しくは以下をご覧ください。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(33 ページ)
- 「スピーカーの音量を個別に調整する」(64 ページ)

● 本機と該当スピーカーを接続しているケーブルが破損している。

接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

● 該当スピーカーが故障している。

正常に機能している別のスピーカーと交換すると確認できます。それでも音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。

■ サブウーファーから音が出ない

● 再生ソースに LFE や低音信号が含まれていない。

確認するには、設定メニューの「エクストラベース」を「オン」に設定して、フロントチャンネルの低音域をサブウーファーから出力してください。詳しくは「エクストラベースを設定する」(63 ページ) をご覧ください。

● サブウーファーの出力が無効になっている。

YPAO を実行するか、設定メニューの「サブウーファー」を「使用する」に設定してください。詳しくは以下をご覧ください。

- 「スピーカー設定を自動で調整する (YPAO)」(33 ページ)
- 「サブウーファーの有無を設定する」(62 ページ)

● サブウーファーの音量が極端に小さい。

サブウーファーの音量を調節してください。

● サブウーファーのオートスタンバイ (自動的に電源を切る機能) が作動した。

サブウーファーのオートスタンバイを無効にするか、動作感度を調節してください。

■ HDMI で接続した再生機器の音が出ない

● テレビが著作権保護 (HDCP) に対応していない。

テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。

● HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えている。

使用していない HDMI 機器を取り外してください。

■ HDMI コントロール使用時に、テレビの音声が本機から出ない

- テレビ側で、テレビのスピーカーから音声を出力するように設定されている。
テレビ音声が本機から出力されるように、テレビの音声出力設定を変更してください。
- ARC に対応していないテレビを HDMI ケーブルのみで接続している。
光ケーブルで接続してください。
- 音声ケーブルで本機とテレビを接続している場合に、「TV 音声入力」の設定と、実際にテレビが接続されている端子が異なっている。
設定メニューの「TV 音声入力」で正しい音声入力端子を選んでください。詳しくは「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(66 ページ) をご覧ください。
- ARC を使ってテレビ音声を入力する場合に、本機またはテレビの ARC が無効になっている。
設定メニューの「ARC」を「オン」に設定してください。詳しくは「ARC を設定する」(67 ページ) をご覧ください。
また、テレビ側で ARC を有効にしてください。

■ DSD 音声 (SACD プレーヤーなど) を再生してもテレビから音が出ない

- DSD 音声の再生中は、その音声をテレビに出力しない仕様です。
PCM で出力するように再生機器を設定してください。

■ マルチチャンネル再生時にフロントスピーカーからしか音が出ない

- 音場プログラムとして「2ch Stereo」を選択している。
「2ch Stereo」以外の音場プログラムを選択してください。詳しくは「ステレオ再生に適した音場プログラムを選ぶ (STEREO)」(42 ページ) をご覧ください。

■ 雑音が入る

- デジタル機器や高周波機器が本機の近くに置かれている。
本機と該当機器の距離を離してください。
- 本機と再生機器を接続しているケーブルが破損している。
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ 音がひずむ

- 本機の出力端子に接続されている外部機器の電源が切れている。
該当機器すべての電源を入れてください。
- 音量が大きすぎる。
音量を下げてください。
また、設定メニューの「エコモード」が「オン」に設定されている場合は、「オフ」に設定してください。詳しくは「エコモードを設定する」(71 ページ) をご覧ください。

映像のトラブル

■ 映像が出ない

- 本機で別の入力が選択されている。
入力選択キーで入力 (ビデオ機器) を選んでください。
- テレビで別の入力が選択されている。
テレビ側の入力を本機からの映像に切り替えてください。
- テレビが非対応の映像信号を出力している。
再生機器の映像出力が適切に設定されているか確認してください。
- 本機、テレビ、ビデオ機器を接続しているケーブルが破損している。
接続を確認のうえ問題がなければ、別のケーブルに交換してください。

■ HDMI で接続したビデオ機器の映像が出ない

- 本機が非対応の映像信号（解像度）を入力している。

入力中の映像信号（解像度）は、オプションメニューの「信号情報」（Signal Info.）で確認できます。詳しくは「映像/音声信号情報を確認する（Signal Info.）」（56 ページ）をご覧ください。本機が対応している映像信号については、「対応している HDMI 信号」（94 ページ）をご覧ください。

- テレビが著作権保護（HDCP）に対応していない。

テレビの取扱説明書などを参照して確認してください。

- HDMI OUT 端子に接続されている機器の数が制限数を超えていている。

使用していない HDMI 機器を取り外してください。

■ HDMI 接続した再生機器からの映像（HDCP2.2 対応機器が必要なコンテンツ）が表示されない

- テレビ（HDMI 入力端子）が HDCP2.2 に対応していない。

HDCP2.2 対応のテレビ（HDMI 入力端子）に接続してください（テレビ画面に注意メッセージが表示される場合があります）。

■ 本機のメニューがテレビに表示されない

- 本機とテレビが HDMI ケーブルで接続されていない。

本機のメニューをテレビに表示するには、本機とテレビを HDMI で接続する必要があります。必要に応じて、テレビと本機を HDMI ケーブルで接続してください。詳しくは「テレビを HDMI 接続する」（28 ページ）をご覧ください。

- テレビで別の入力が選択されている。

テレビ側の入力を本機（HDMI OUT 端子）からの映像に切り替えてください。

FM/AM ラジオのトラブル

■ FM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

- マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。

FM アンテナの高さ、向き、設置場所を変えてください。

- ラジオ局から離れた地域で受信している。

オプションメニューの「FM モード」を「モノラル」に設定して、モノラル受信に切り替えてください。詳しくは「FM ラジオの受信方法（ステレオ/モノラル）を設定する（FM Mode）」（58 ページ）をご覧ください。また、市販の屋外アンテナを使用してください。

■ AM ラジオの受信感度が悪い、雑音が入る

- 蛍光灯、モーターなどの雑音を拾っている。

環境により雑音を完全に除去するのは困難です。ただし、市販の屋外アンテナを使うと雑音を低減することができます。

■ FM/AM ラジオの自動選局ができない

- FM ラジオ局から離れた地域で受信している。

手動で選局してください。詳しくは「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」（45 ページ）をご覧ください。

また、市販の屋外アンテナを使用してください。

- AM ラジオの電波が弱い。

AM アンテナの方向を変えてください。

手動で選局してください。詳しくは「周波数を指定してラジオ局を選ぶ」（45 ページ）をご覧ください。

また、市販の屋外アンテナを使用してください。ANTENNA (AM) 端子に付属の AM アンテナと一緒に接続してください。

■ AM ラジオ局を登録（プリセット）できない

- 自動登録（オートプリセット）を使用した。

オートプリセットはFMラジオ局のみが対象です。AMラジオ局は手動で登録してください。詳しくは「ラジオ局を手動でプリセット登録する」(47ページ)をご覧ください。

USB のトラブル

■ USB 機器が認識されない

- USB 機器が USB 端子に正しく接続されていない。

本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。

- FAT16/32 フォーマット以外の USB 機器を使用している。

FAT16/32 フォーマットの USB 機器を使用してください。

■ USB 機器のフォルダーやファイルが表示されない

- 暗号化機能により USB 機器内のデータが保護されている。

暗号化機能のない USB 機器を使用してください。

■ USB 機器のファイルを連続して再生できない。

- 選択したフォルダーに、本機で再生できないファイルが含まれている。

再生するフォルダーには、本機で再生できないファイルを入れないでください。

Bluetooth®のトラブル

■ Bluetooth 機器とペアリングできない

- 本機がすでに別の Bluetooth 機器と接続されている。

現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器とペアリングしてください。

- 本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。

本機と Bluetooth 機器を近づけてペアリングしてください。

- 2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。

本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。

- ペアリングする Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。

A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器とペアリングしてください。

■ Bluetooth®機器と接続できない

- 本機の Bluetooth 機能が無効になっている。

Bluetooth 機能を有効にしてください。

- 本機が別の Bluetooth 機器と接続されている。

現在の Bluetooth 接続を切断してから、目的の Bluetooth 機器と接続してください。

- ペアリング情報が消えた。

Bluetooth 機器内のペアリング情報を削除して、再度ペアリングしてください。詳しくは「Bluetooth®機器を接続する（ペアリング）」（48 ページ）をご覧ください。本機は最大 16 台の Bluetooth 機器とペアリングできます。17 台目の接続機器とのペアリングが成功すると、接続した日時がもっとも古い接続機器のペアリング情報が削除されます。

- 本機と Bluetooth 機器の距離が離れすぎている。

本機と Bluetooth 機器を近づけてください。

- 2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。

本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。

- お使いの Bluetooth 機器が A2DP プロファイルに対応していない。

A2DP プロファイル対応の Bluetooth 機器をお使いください。

- Bluetooth 機器に登録されているペアリング情報が何らかの原因で正しく機能していない。

Bluetooth 機器のペアリング情報を削除してから、本機と Bluetooth 機器のペアリング操作を行ってください。詳しくは「Bluetooth®機器を接続する（ペアリング）」（48 ページ）をご覧ください。

■ Bluetooth®接続時に音が出ない、音が途切れる

- Bluetooth 機器の音量が小さすぎる。

Bluetooth 機器の音量を上げてください。

- Bluetooth 機器の出力切り替えが本機に設定されていない。

Bluetooth 機器の出力切り替えを本機に設定してください。

- Bluetooth 接続が切断された。

再度 Bluetooth 接続を行ってください。詳しくは「Bluetooth®機器の音声を本機で再生する」（49 ページ）をご覧ください。

- 距離が離れすぎている。

Bluetooth 機器を本機の近くに移動してください。

- 2.4GHz 周波数帯を使用する機器（電子レンジ、無線 LAN など）からの干渉により、無線通信が妨害されている。

本機や Bluetooth 機器を、それらの機器から遠ざけてください。

前面ディスプレイのエラー表示

前面ディスプレイのエラー表示

前面ディスプレイにエラーが表示された場合は、以下をご確認ください。

メッセージ (アルファベット順)	内容	対策
Access error	USB 機器にアクセスできない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Check SP Wires	スピーカーケーブルがショートしている。	各スピーカーケーブルの芯線をしっかりとよじり、本機とスピーカーに接続し直してください。
Internal Error	本機の内部でエラーが発生している。	ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。
No content	選択したフォルダーに本機が再生可能なファイルが含まれていない。	本機が再生可能なファイルが含まれている、別のフォルダーを選択してください。
No device	USB 機器が認識されていない。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Not found	Bluetooth 機器が見つからない。	<ul style="list-style-type: none">Bluetooth 機器を本機から 10m 以内に移動してください。再度ペアリングしてください。
RemID Mismatch	リモコン ID が一致していない。	リモコンまたは本機のリモコン ID を変更して ID を一致させてください。詳しくは「リモコン ID を設定する (REMOTE ID)」(75 ページ) をご覧ください。
USB Overloaded	USB 機器に過電流が流れている。	本機の電源を切り、USB 機器を接続し直してください。それでもエラーが表示される場合は、別の USB 機器に音楽ファイルを移動して再生してください。
Version error	ファームウェアの更新に失敗している。	再度ファームウェアを更新してください。詳しくは「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(77 ページ) をご覧ください。
Update failed.	ファームウェアの更新に失敗している。	INFO キーを押し再度ファームウェアを更新してください。詳しくは「ファームウェアを更新する (UPDATE)」(77 ページ) をご覧ください。

入出力端子とケーブル

映像/音声を入出力する端子

HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を伝送します。接続には、HDMI ケーブルを使います。



NOTE

- HDMI ロゴ入りの HDMI ケーブル (19 ピン) をお使いください。また、信号の品質劣化を防ぐため、長さが 5.0 メートル以下のケーブルをおすすめします。
- HDMI コントロール、オーディオリターンチャンネル (ARC)、3D 映像、4K Ultra HD 映像の伝送に対応しています。
- 3D 映像、4K Ultra HD 映像をお楽しみになる場合は、Premium HDMI ケーブルまたはイーサネット対応 Premium HDMI ケーブルをお使いください。

映像を入出力する端子

VIDEO 端子

アナログ映像を伝送します。接続には、映像用ピンケーブルを使います。



音声を入出力する端子

OPTICAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、光デジタルケーブルを使います。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、取り外してからお使いください。



COAXIAL 端子

デジタル音声を伝送します。接続には、同軸デジタルケーブルを使います。



AUDIO 端子

(ステレオ L/R 端子)

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオピンケーブルを使います。



(ステレオミニ端子)

アナログステレオ音声を伝送します。接続には、ステレオミニプラグのケーブルを使用します。



音声に関する用語

■ 音声デコードフォーマットに関する用語

本説明書で使用する音声デコードフォーマットに関する用語を解説します。

サンプリング周波数と量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際の情報量を表す数値です。たとえば、48kHz/24bit などのように表現されます。

- サンプリング周波数

1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数を示します。この数値が大きいほど再生可能な音域が広がります。

- 量子化ビット数

音の大きさを数値化するときのきめ細かさを示します。この数値が大きいほど音の強弱変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、モノラル音声から 5.1 チャンネル音声までを効率良く圧縮できる音声フォーマットです。BS/地上波デジタル放送で採用されています。

Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズにより開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

Dolby Pro Logic II

2 チャンネルで記録された音声信号を 5 チャンネル信号に変換する技術です。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby TrueHD

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、ドルビーラボラトリーズによって開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS デジタルサラウンド

DTS 社により開発された、5.1 チャンネル対応の圧縮音声フォーマットです。多くの DVD ディスクなどで採用されています。

DTS96/24

高品質 96kHz/24bit 5.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。音楽 DVD などで採用されています。

DTS Express

DTS Digital Surround フォーマットよりも、さらに高圧縮に対応した 5.1 チャンネル対応の音声フォーマットです。ネットワークストリーミングや BD（ブルーレイディスク）のセカンダリーオーディオなどを目的として開発されています。

DTS-HD High Resolution Audio

DTS 社により開発された高品質 96kHz/24bit 7.1 チャンネルに対応した圧縮音声フォーマットです。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があります。BD（ブルーレイディスク）などで採用されています。

DTS-HD Master Audio

スタジオマスター品質の音声を家庭で再現するために、DTS 社により開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。96kHz/24bit 時で最大 8 チャンネル（192kHz/24bit 時は最大 6 チャンネル）のディスクリート音声信号を収録・再生できます。BD（ブルーレイディスク）で採用されています。

DTS Neo:6

2 チャンネルで記録された信号のソースを、6 チャンネル音声に変換する技術です。映画用の Cinema モード、音楽用の Music モードが用意されています。ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネル分離感を実現します。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパー・オーディオ CD）などで採用されている、デジタル信号を記録する方式の一つです。2.8224Mbps や 5.6448Mbps の高ビットレートで記録され、CD よりも高音質な再生ができます。収録可能な周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。

MP3

MPEG 圧縮技術を使用した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約 1/10 に圧縮できると言われています。

MPEG-4 AAC

MPEG-4 オーディオ規格の一つです。音質を保ったまま、データ量を大幅に圧縮できます。携帯電話や携帯音楽プレーヤーなどの小容量、高音質が求められる機器や、インターネット上のコンテンツ配信などにも利用されています。

PCM（パルス・コード・モジュレーション）

アナログ音声信号をデジタル音声信号に記録・変換・伝送する方式で、すべてのデジタル音声信号方式の基礎となる技術です。また非圧縮音声フォーマットとして、CDをはじめとしてBD（ブルーレイディスク）などさまざまなコンテンツで採用されており、リニアPCMとも呼ばれています。

WAV

Windows標準の音声ファイルの形式です。デジタル音声信号の保存形式などを規定しています。通常はPCMデータ（非圧縮）が使用されますが、任意の圧縮方式も利用できます。

WMA（Windows Media Audio）

Microsoft社が開発した音声圧縮フォーマットです。人間の感じ取りにくい部分のデータを間引く非可逆圧縮方式を採用しており、音質を保ったままデータ量を約1/20に圧縮できると言われています。

■ 音声デコードフォーマット以外の音声に関する用語

本説明書で使用する音声に関する用語を解説します。

リップシンク（Lipsync）

音声と映像の出力タイミングのずれを補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声に対して映像が遅れてしまう症状を補正します。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AACのいずれでも、全帯域用のチャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1と表現されます。

HDMI/映像に関する用語

本説明書で使用するHDMI/映像に関する用語を解説します。

コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号を1つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。

Deep Color

HDMIがサポートしている映像技術です。RGBまたはYCbCr信号の処理を、従来の8ビットに対して10/12/16ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたため、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上します。

HDMI

世界業界標準規格であるHDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、デジタルインターフェースです。デジタルビデオ/オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1本のケーブルで伝送できます。また、著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しています。より詳しい情報は、"http://www.hDMI.org"を参照ください。

x.v.Color

HDMIがサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB規格との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。

ヤマハテクノロジーに関する用語

本説明書で使用するヤマハテクノロジーに関する用語、技術を解説します。

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場再生を仮想的に再現する技術です。すべての音場プログラムはヘッドホン用に効果調整されており、自然で立体感あふれるサラウンドをお楽しみいただけます。

シネマ DSP (デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)

本来映画館用に設計されたシステムをご家庭で再生すると、部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差がでてしまします。シネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマ DSP

フロントスピーカー 2 本のみでも、仮想的にサラウンドスピーカーの音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを設置していくとも、豊かな音場プログラム再生をお楽しみいただけます。

バーチャルシネマフロント

サラウンドスピーカーを前方に配置したときに、後方の音場を再現する技術です。サラウンドスピーカーを前方に配置しても、サラウンド再生をお楽しみいただけます。

ミュージックエンハンサー

携帯音楽プレーヤーや PC などで使用される圧縮オーディオフォーマット (MP3、AAC など) で不足しがちな高音域と低音域を拡張・強調する技術です。これにより圧縮オーディオをより音楽的にダイナミックにお楽しみいただけます。

YPAO (Yamaha Parametric room Acoustic Optimizer)

付属の YPAO 用マイクを使って、スピーカーの接続や視聴位置との距離を検出し、音量バランスや音色などのスピーカー設定を自動で調整する技術です。

対応している機器とフォーマット

対応している Bluetooth 機器

本機が対応している Bluetooth 機器は、以下をご確認ください。

- A2DP プロファイルに対応した Bluetooth 機器に対応しています。
- すべての Bluetooth 機器に対する接続を保証するものではありません。

対応している USB 機器

本機が対応している USB 機器は、以下をご確認ください。

- 本機は、FAT16/FAT32 フォーマットの USB マスストレージクラスの機器 (フラッシュメモリー、携帯音楽プレーヤーなど) に対応しています。
- USB マスストレージクラス以外の機器 (USB チャージャー、USB ハブなど)、パソコン、カードリーダー、外付けハードディスクを接続しないでください。
- 暗号化機能がある USB 機器は使用できません。
- すべての USB 機器に対する接続を保証するものではありません。

対応しているフォーマット

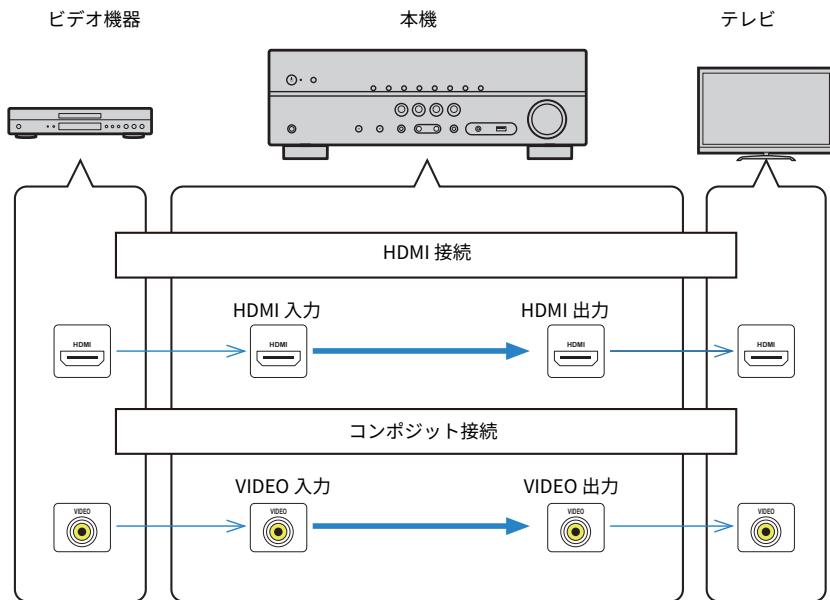
本機が対応している USB のファイルフォーマットは、以下をご確認ください。

- 1ch または 2ch の音声ファイルとして、WAV (リニア PCM フォーマットのみ)、MP3、WMA、MPEG-4 AAC に対応しています。
- サンプリング周波数 48kHz まで対応しています。
- DRM (デジタル著作管理) により保護されたファイルは再生できません。

映像信号の流れ

映像信号の流れ

ビデオ機器から本機に入力された映像信号は、以下のようにテレビに出力されます。



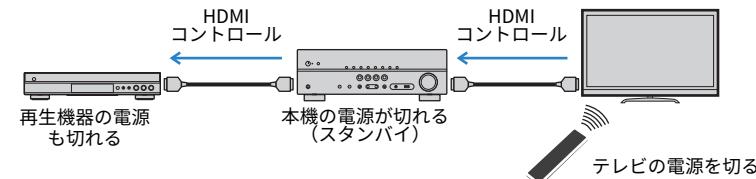
HDMIについて

HDMI コントロールと連動機能

HDMI ケーブルで本機とテレビを接続すると、テレビのリモコン操作に連動して、本機の電源や音量などを操作できます (HDMI コントロール)。また HDMI ケーブルで接続した再生機器 (HDMI コントロール対応の BD/DVD レコーダーなど) も操作できます。

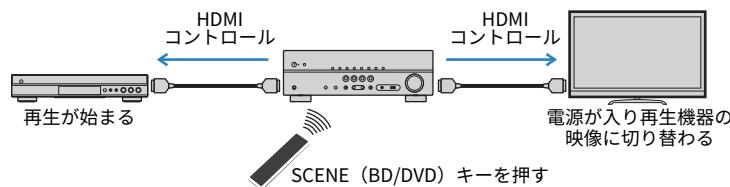
テレビのリモコン操作による連動機能

- ・電源スタンバイ
- ・音量調節および消音
- ・テレビで内蔵チューナー選択時に、本機の入力をテレビ音声入力に切り替え
- ・テレビで再生機器を選択時に、本機の入力を再生機器に切り替え (映像をテレビに出力)
- ・音声出力機器の切り替え (本機またはテレビ)



本機のリモコン操作による連動機能

- ・シーン選択と連動して外部機器の再生開始およびテレビの電源入
- ・テレビの入力を本機の映像に切り替えて設定メニューを表示（SETUP キー操作時）
- ・再生機器（再生機能およびメニュー）を操作



NOTE

シーン選択との連動については、「SCENE キーに登録したシーンを呼び出す」（52 ページ）をご覧ください。

HDMI コントロールを使うには、テレビ、再生機器を接続後に以下の連動設定が必要です。テレビ、再生機器の設定や操作については、各機器の取扱説明書をご覧ください。

NOTE

HDMI コントロール対応の機器を新しく追加するたびに、以下の設定が必要になります。

- 1 本機、テレビ、再生機器の電源を入れる。
- 2 本機、テレビ、HDMI コントロール対応の再生機器（BD/DVD レコーダーなど）の HDMI コントロール機能を有効にする。
本機の HDMI コントロール機能を有効にするには、設定メニューの「HDMI コントロール」を「オン」に設定してから、関連項目（TV 音声入力、スタンバイ連動、ARC、シーン連動）を設定します。設定メニューの「HDMI コントロール」については、「HDMI コントロールを設定する」（66 ページ）をご覧ください。
- 3 テレビの主電源を切ってから、本機と再生機器の電源を切る。
- 4 本機と再生機器の電源を入れてから、テレビの主電源を入れる。

- 5 テレビ側の入力設定を本機からの映像に切り替える。

- 6 本機の入力が再生機器からの HDMI 入力（「HDMI1～4」のいずれか）に切り替わっていることを確認する。

ほかの入力が選ばれている場合は、手動で再生機器からの入力を選んでください。

- 7 テレビ画面に再生機器の映像が表示されていることを確認する。

- 8 テレビのリモコンを使って電源スタンバイ、音量調節などの操作を行い、本機が連動するか確認する。

NOTE

- ・HDMI コントロールが正しく機能しないときに、再生機器の電源を入れ直したり、電源プラグを差し直したりすると改善される場合があります。また HDMI コントロール連動機器が制限数を超えて接続されていると正しく機能しない場合があります。この場合は、使用していない機器の HDMI コントロールを無効にしてください。
- ・電源のみ連動しない場合は、テレビ側の優先音声出力設定を確認してください。
- ・HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと再生機器は、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。各メーカーの HDMI コントロール対応機種については、以下のウェブサイトをご覧ください。
http://jp.yamaha.com/products/audio-visual/connect/hdmi_cec/

オーディオリターンチャンネル (ARC)

本機からテレビに映像を伝送している HDMI ケーブルを使って、テレビの音声を本機に入力できます。HDMI コントロールの設定後、以下を確認してください。

NOTE

HDMI コントロールの設定については、「HDMI コントロールと連動機能」(92 ページ)をご覧ください。

1 テレビのリモコンでテレビ番組を選ぶ。

2 本機の入力が自動的に「AV2」に切り替わり、テレビの音声が本機から出力されることを確認する。

テレビの音声が出力されない場合は、以下をご確認ください。

- ・設定メニューの「ARC」が「オン」になっている。設定メニューの「ARC」については、「ARC を設定する」(67 ページ)をご覧ください。
- ・HDMI ケーブルがテレビの ARC 対応 HDMI 端子に接続されている。

テレビの HDMI 端子が ARC に対応していない場合もあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

NOTE

- ・ARC 使用時に音声が途切れる場合は、設定メニューの「ARC」を「オフ」に設定し、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続してください。設定メニューの「ARC」については「ARC を設定する」(67 ページ)を、光デジタルケーブルで本機とテレビを接続するには「テレビを HDMI 接続する」(28 ページ)をご覧ください。
- ・ARC を使う場合は、ARC 対応の HDMI ケーブルでテレビと本機を接続してください。
- ・初期状態では、テレビの音声入力用として「AV2」が設定されています。AV2 端子に別の機器を接続している場合は、設定メニューの「TV 音声入力」でテレビ音声を割り当てる入力を変更してください。設定メニューの「TV 音声入力」については、「テレビからの音声を入力する端子を設定する」(66 ページ)をご覧ください。また、シーン機能を使う場合は、SCENE (TV) キーの入力設定もあわせて変更してください。シーン機能の変更については、「SCENE キーの登録内容を変更する」(52 ページ)をご覧ください。

対応している HDMI 信号

本機の HDMI 信号については、以下をご確認ください。

- ・一部の再生機器は、コピープロテクトがかった DVD オーディオの映像/音声を出力できません。
- ・本機は HDCP 非対応の HDMI または DVI 端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ・再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声（光デジタルまたは同軸デジタル）で本機に入力すれば、音声解説を楽しめます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。なお、BD などの音声解説（インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

商標

商標

本説明書で使用している商標です。



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTS の特許に関しては <http://patents.dts.com> をご覧ください。本製品は DTS Licensing Limited のライセンスに基づき製造しています。DTS、DTS-HD、それらのシンボルマークおよび DTS とそのシンボルマークの組み合せは、DTS 社の登録商標です。

©DTS, Inc. All Rights Reserved.



AAC ロゴマーク (マーク) はドルビーラボラトリーズの商標です。



「サイレントシネマ™ SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

App Store は Apple Inc.のサービスマークです。



HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国々における HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

Android™ Google Play™

Android、Google Play は、Google Inc.の商標または登録商標です。



Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ヤマハ株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

Bluetooth プロトコルスタック(Blue SDK)

© 1999-2014 OpenSynergy GmbH

All rights reserved. All unpublished rights reserved.

Google Noto Fonts

本製品は以下のフォントを使用しています。

Noto Sans Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/#sans-lgc>)

© June 2015, Google Noto Sans CJK Version 1.004

(<https://www.google.com/get/noto/help/cjk/>)

© June 2015, Google

これらのフォントソフトウェアは、SIL Open Font License 1.1 のもとライセンスされています。ライセンスに関しては、<http://scripts.sil.org/OFL> の FAQ をご覧ください。

主な仕様

主な仕様

本機の主な仕様です。

入力端子

アナログ音声

- ステレオ×3 (AUX[3.5mm ミニ端子]含む)

デジタル音声 (対応 fs : 32kHz～96kHz)

- 光×1
- 同軸×2

映像

- コンポジットビデオ×3

HDMI 入力

- HDMI×4

その他

- USB×1 (USB2.0)

出力端子

アナログ音声

- スピーカー出力×5 (フロント左/右、センター、サラウンド左/右)
- サブウーファー出力×1
- ヘッドホン×1

映像

- コンポジットビデオ×1

HDMI 出力

- HDMI×1

その他の端子

YPAO MIC×1

HDMI

HDMI 機能

- 4K UltraHD Video (include 4K/60、50Hz 10/12bit)、3D Video、オーディオリターンチャンネル (ARC)、HDMI コントロール (CEC)、オートリップシンク、Deep Color、“x.v.Color”、HD オーディオ再生、21:9 アスペクト比、BT.2020 対応、HDR 対応

映像フォーマット (リピーターモード)

- VGA
- 480i/60Hz
- 576i/50Hz
- 480p/60Hz
- 576p/50Hz
- 720p/60Hz、50Hz
- 1080i/60Hz、50Hz
- 1080p/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz
- 4K/60Hz、50Hz、30Hz、25Hz、24Hz

音声フォーマット

- Dolby TrueHD
- Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS-HD Master Audio
- DTS-HD High Resolution Audio
- DTS Express
- DTS
- DSD 2～6 チャンネル
- PCM 2～8 チャンネル (Max 192kHz/24bit)
- AAC

著作権保護：HDCP 2.2 準拠

リンク機能：CEC 対応

チューナー

アナログチューナー

- FM/AM×1 (TUNER)

USB

USB マスストレージクラス

最大供給電流：0.5A

Bluetooth

受信動作

- Bluetooth 機器（スマートフォン、タブレットなど）からの受信機能
- サポートプロファイル
 - A2DP
- 対応コーデック
 - SBC

送信動作

- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）への送信機能
- サポートプロファイル
 - A2DP
- 対応コーデック
 - SBC
- Bluetooth 機器（Bluetooth ヘッドホンなど）からの再生/停止操作が可能

Bluetooth バージョン

- Ver. 2.1+EDR

ワイヤレス出力

- Bluetooth Class 2

最大通信距離

- 10m (障害物がないこと)

対応デコードフォーマット

デコードフォーマット

- Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus
- Dolby Digital
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express
- DTS、DTS 96/24
- AAC

ポストデコードフォーマット

- Dolby Pro Logic
- Dolby Pro Logic II Music, Dolby Pro Logic II Movie, Dolby Pro Logic II Game
- DTS Neo:6 Music, DTS Neo:6 Cinema

オーディオ部

定格出力 (2ch 駆動) (20Hz~20kHz、0.09%THD、6Ω)

- フロント左/右 70W+70W

定格出力 (1ch 駆動) (1kHz、0.9%THD、6Ω)

- フロント左/右 100W/ch
- センター 100W/ch
- サラウンド左/右 100W/ch

実用最大出力 (JEITA、1kHz、10%THD、6Ω)

- フロント左/右 135W/ch
- センター 135W/ch
- サラウンド左/右 135W/ch

ダイナミックパワー

- フロント左/右 (6Ω/4Ω/2Ω) 110/130/150W

ダンピングファクター

- フロント左/右 (20Hz~20kHz、8Ω) 100 以上

入力感度/入力インピーダンス

- AV2 他 (1kHz、100W/6Ω) 200mV/47kΩ

最大許容入力	
• AV2 他 (1kHz、0.5%THD、Effect On)	2.3V
出力電圧/出力インピーダンス	
• SUBWOOFER	1V/1.2kΩ
ヘッドホン出力/出力インピーダンス	
• AV2 他 (1kHz、50mV、8Ω)	100mV/470Ω
周波数特性	
• AV2 他→フロント (10~100kHz)	+0/.3dB
S/N 比 (IHF-A ネットワーク)	
• AV2 他 (入力 1kΩ ショート、SP OUT)	110dB 以上
残留ノイズ (IHF-A ネットワーク)	
• フロント左/右 (SP OUT)	150μV 以下
チャンネルセパレーション	
• AV2 他 (入力 1kΩ ショート、1kHz/10kHz)	70dB/50dB 以上
音量可変範囲	MUTE、-80dB~+16.5dB (0.5dB ステップ)
トーンコントロール特性	
• BASS (可変幅)	±6dB/0.5dB ステップ、50Hz
• BASS (ターンオーバー周波数)	350Hz
• TREBLE (可変幅)	±6dB/0.5dB ステップ、20kHz
• TREBLE (ターンオーバー周波数)	3.5kHz
フィルター特性 (fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz)	
• H.P.F. (フロント、センター、サラウンド)	12dB/oct.
• L.P.F. (サブウーファー)	24dB/oct.

ビデオ部

ビデオ信号方式	NTSC
コンポジットビデオ信号	1Vp-p/75Ω
ビデオ最大許容入力	1.5Vp-p 以上
S/N 比	50dB 以上

FM チューナー部

受信周波数範囲	76.0MHz~94.9MHz (FM 挿完放送対応)
50dB SN 感度 (IHF、1kHz、100% MOD.)	
• モノ	3μV (20.8dBf)
S/N 比 (IHF)	
• モノ/ステレオ	65dB/64dB
歪率 (1kHz)	
• モノ/ステレオ	0.5%/0.6%
アンテナ入力	75Ω、アンバランス

AM チューナー部

受信周波数範囲	531~1611kHz
総合	

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	260W

待機時消費電力

• HDMI コントロールオフ、Bluetooth スタンバイオフ	0.3W
• HDMI コントロールオン（無信号時）	0.9W
• Bluetooth スタンバイオン（Lot26）	0.6W
• HDMI コントロールオン、Bluetooth スタンバイオン（Lot26）	1.2W

寸法（幅×高さ×奥行き）	435×151×315mm（脚部、突起物を含む）
--------------	--------------------------

質量	7.4kg
----	-------

* この取扱説明書では、発行時点の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。

初期値一覧

オプションメニュー初期値一覧

本機のオプションメニューの初期値は、以下をご確認ください。

トーンコントロール 高音 (Treble)、低音 (Bass)
とともに Bypass (0.0dB)

* 高音 (Treble) と低音 (Bass) の
両方が 0.0dB の場合は、「バイパ
ス」 (Bypass) と表示されます。

DSP/サラウンド

・エフェクト量の加減	0dB
・アダプティブ DRC	オフ (Off)
・多重モノラル音声	主音声 (Main)
・エンハンサー	
- TUNER、Bluetooth、USB	オン (On)
- その他	オフ (Off)

再生レベル補正

・入力レベル補正	0.0dB
・サブウーファーレベル補正	0.0dB

リップシンク設定 オン (On)

映像選択 オフ (Off)

FM モード ステレオ (Stereo)

リピート オフ (Off)

入力連動 オン (On)

設定メニュー初期値一覧

本機の設定メニューの初期値は、以下をご確認く
ださい。

スピーカー設定

構成

・サブウーファー	使用する
・フロント	小
・センター	小
・サラウンド	小
・低音クロスオーバー	80Hz
・サブウーファー位相	正相
・エクストラベース	オフ
・バーチャルシネマフロント	オフ

距離

・フロント左、フロント右、サブウー ファー	3.00m
・センター	2.60m
・サラウンド左、サラウンド右	2.40m

音量

・フロント左、フロント右、サブウー ファー	0.0dB
・センター、サラウンド左、サラウン ド右	-1.0dB

イコライザー

GEQ

テストトーン

オフ

HDMI 設定

HDMI コントロール	オン
音声出力	オフ
4K アップスケーリング	オフ
TV 音声入力	AV2
スタンバイ連動	自動
ARC	オン
シーン連動	
・ BD/DVD、TV	オン
・ CD、RADIO	オフ

音声設定

DSP パラメーター	
・ パノラマ	オフ
・ センターの広がり	3
・ ディメンション	0
・ センターイメージ	0.3

リップシンク

・ 自動/手動選択	自動補正
(自動補正に対応しているテレビを HDMI で本機に接続している場合 のみ有効)	
・ 調整	0ms

ダイアローグ	
・セリフ音量調整	0

音量	
・音量表示	dB
・ダイナミックレンジ	最大
・音量の上限	+16.5dB
・音量の初期値	オフ

エコ設定

自動スタンバイ	オフ
エコモード	オフ

ファンクション設定

入力名変更	
・HDMI1～4	自動
・その他	手動
(AUX、Bluetooth、USB は「手動」のみ選択可)	
入力スキップ	オフ
明るさ	0
設定保護	オフ
リモコンカラーキー	初期値

Bluetooth 設定

Bluetooth	オン
-----------	----

音声受信	—
・デバイス切断	オン

音声送信	—
・音声送信機能	オフ
・デバイス検索	—

言語設定

日本語

アドバンスドセットアップメニュー

初期値一覧

本機のアドバンスドセットアップメニューの初期値は、以下をご確認ください。

REMOTE ID ID1

TV FORMAT NTSC

4K MODE MODE 1

INIT CANCEL

UPDATE USB

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■お客様コミュニケーションセンター オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル **0570-011-808**
(全国共通) ナビダイヤル

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

■ホームシアター・オーディオサポートメニュー

お客様からお寄せいただくよくあるお問い合わせをまとめました。
ぜひご覧ください。

<http://jp.yamaha.com/support/audio-visual/>

ヤマハAV製品の修理、サービスパートに関する お問い合わせ

■ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル **0570-012-808**
(全国共通) ナビダイヤル

固定電話は、全国市内通話料金でご利用いただけます。
通話料金は音声案内で確認できます。

上記の番号でつながらない場合は、以下の番号におかけください。
TEL (053) 460-4830

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)

FAXでのお問い合わせ

北海道、東北、関東、甲信越、東海地域にお住まいのお客様
(03) 5762-2125

北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域にお住まいのお客様
(06) 6649-9340

修理品お持ち込み窓口

受付：月～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く)
*お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011 大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナンバード本ニッセイビル7F
FAX (06) 6649-9340

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

●保証期間

製品に添付されている保証書をご覧ください。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

●修理料金の仕組み

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示しております。

●スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エーペンジングの差による音色の違いが出る場合があります。

●摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。

本機を未永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。

摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触るとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

〒430-8650 浜松市中区中沢町10-1

Yamaha Global Site
<http://www.yamaha.com/>
Yamaha Downloads
<http://download.yamaha.com/>

Manual Development Group
© 2017 Yamaha Corporation

2018 年 6 月 改訂 NV-W-B0

ZW72290